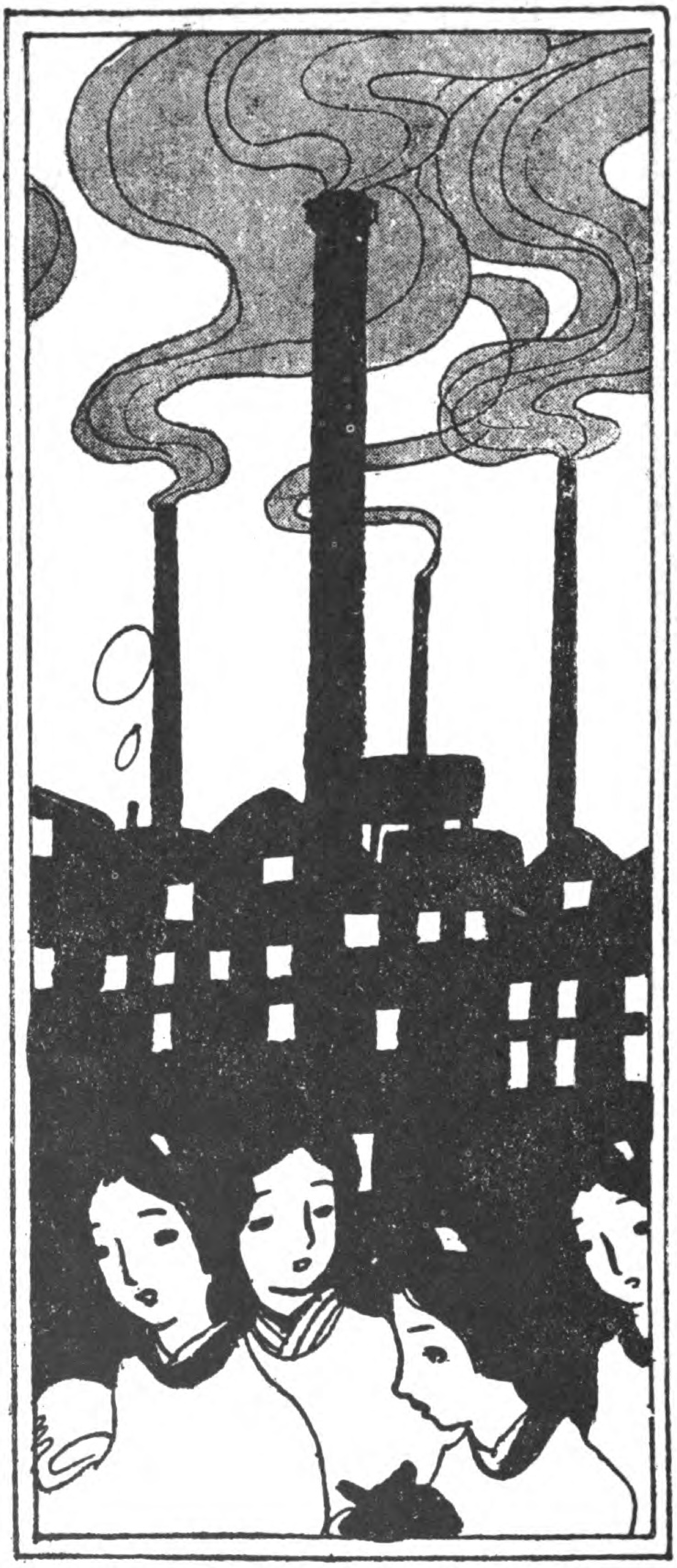
大正六年六月二十八日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）
大正六年七月一日發行（大正六年六月二十七日印刷納本）
友愛婦人 第七號

友愛婦人

復活號

大正六年七月



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

友愛婦人趣意

世の中は男ばかりの世界ではなく男ばかりで保つて行くものではありません。人間の半分は女で、女の心懸けやう、働きやう一つによつて、此世をば明るくもし、暗くもすることが出來るのであります、友愛會は勞働の品位を高め日本の勞働者の境遇を改めやうとして起つた團體であります。が之まで重に男の人達のために働いて參りました。併し男と同じやうに工場や其他の所で働いて居る婦人又は男を助けて家庭の内で働いて居る婦人方のために、何事か致さねばならぬと云ふ感じが此頃特に著しくなりました。そこで玆に友愛會に婦人部を設け、追々といろ〳〵の事業をしたいと思ふのであります。

友愛會婦人部規則

第一條 本會は之を友愛會婦人部と稱し本部を其中心とし各支部内に其地方々々の事務所を置くこと〻致します。

第二條 本部に納める誌代は十錢であります。

第三條 本會は左の如き事業を行ひます。

一、出版部 雜誌『友愛婦人』を毎月一回發行し其他有益な書物を出版致します。

二、講演部 度々講話會を開き餘興を加へて會員の修養娛樂の便を圖ります。

三、人事相談部 會員の爲めに手紙又は面會等の方法に依り種々の相談事に應じます。

四、表彰部 會員の中にて人の模範になる行ひをした人のある時は或は賞金を贈り或は雜誌に寫眞を掲げて其名譽を表彰致します。

五、内職奬勵部 家庭内の婦人の爲めに種々の内職の敎授又は奬勵を致します。

其他必要ある時は右の外諸種の事業を創めることに致します、

第四條 本會に入會を望み又は本誌の讀者とならん事を望まる〻方は規定の料金を添へ幹事又は委員まで申出られたいのであります。

第五條 右の外は適宜に行ふこと〻致します。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

友愛會會長 法學士 鈴木文治 著

勞働創書

第一編

工場法釋義

全一冊美本

定價十五錢

郵稅金二錢

昨年から實施になつた工場法は何人でも心得て居らねばならものだが、中には工場の中に於て働いて居られる方は よく之を心得て居れば大變便利であります、工場法實施以來、その説明の本は隨分澤山出來ましたが、本書の如く定價が安價く文字がわかり易くて、簡單に便利に出來て居るものは他にございません。そして働く人々の立場から解釋し説明致してありますから、友愛婦人の讀者にとつては眞に大切な本であります、十册以上の申込は割引があります。

發行所

東京市芝三田四國町二
（振替東京三一五七）

友愛會本部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『友愛婦人』第七號目次

表紙

工場通ひの少女たち……

本欄

英國の飛行機隊…（寫眞）……六

歐洲の大戰爭（戰場と家庭の寫眞）……七

ためになるおはなし……友愛會長 鈴木文治…八

潮の香高き八丈島と片倉製糸工場（寫眞）……一〇

飛行船と馬上の少女…（寫眞）……一一

アメリカの夏……友愛會教育部長 油谷治郎七…一二

（小說）豫算……平澤紫魂…一四

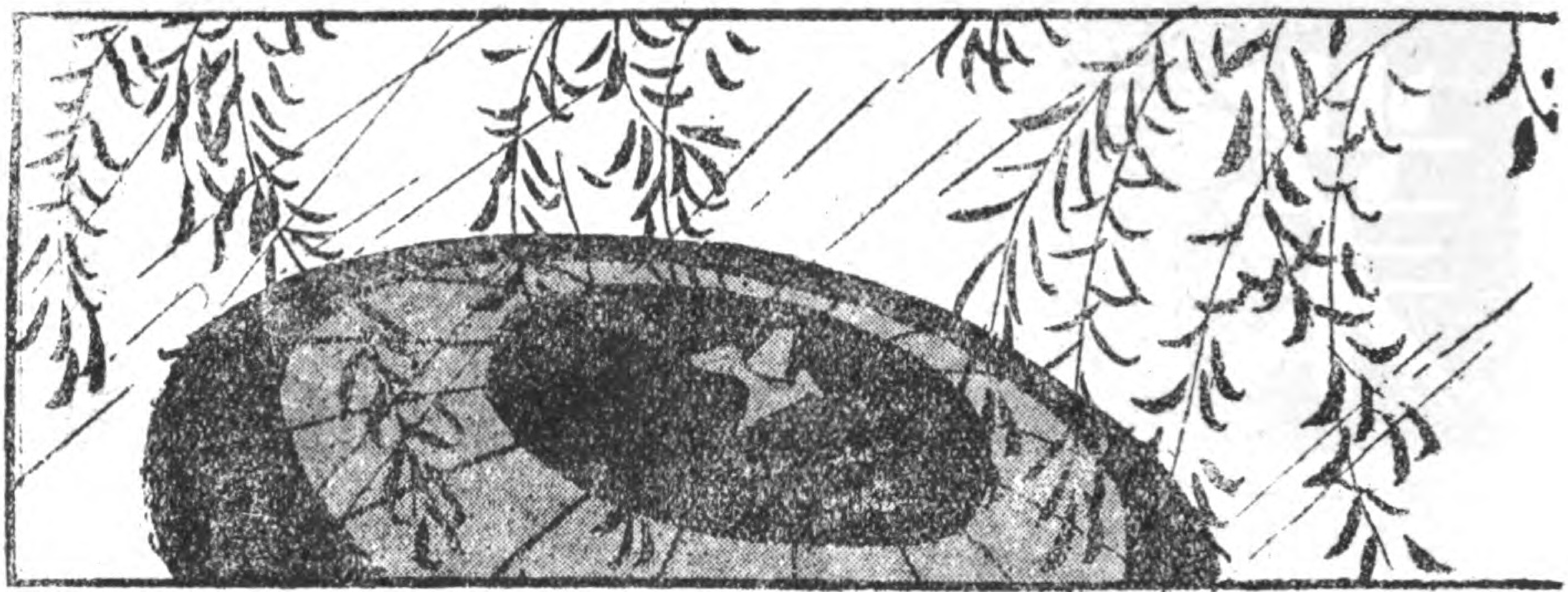
（講談）娘會我……三浦樂堂…一八

姙娠から出產まで（衛生講話）……女醫 吉岡彌生…二三

さんご…（繪と歌）……記者…二六

工女の幸福 工場講話）……工場監督官 宮本貞三郎…二七

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



お臺所の注意（家政講話）……市守文子…三八
恐ろしい黴菌の話……ドクトル堀七藏…四〇
操を（立て丶尼となつた辨の內侍／守つて死んだ判官の妻）……市瀬せん子…四三
七月の手紙……一記者…四四
オトギバナシ……四六
武藏野の夏……坂本正雄…四九
川崎行……稲葉あい子…五〇
富士瓦斯工女のすがた（寫眞）……五二
初夏と女の犯罪……某刑事談…五三
勞働社會の婦人……服部北溟…五六
懸賞問題（前號當選者の發表と新選）……五九
友愛會の消息……六〇
婦人文藝（短文 新體詩、和歌、俳句等）……選者 六一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

勞働及產業

定價 十五錢 一年分一圓八十錢

七月號

第七十一號 毎月一回一日發行

■勞働者に對する舊思想……法學士 鈴木文治
□新溫淸主義論……早大政學士 久留弘三
■法律問答……柳田法學士 ■俳句……菊地一泉
□(社會劇)きずあと……栄魂 平澤計七
■勞働爭議錄……內田茂喜代 ■東西南北……
□友愛會と世評……友愛會出版部長 坂本正雄
■人生の浮沈と友愛主義……前司法大臣 尾崎行雄

職工の休日問題……工業主、學者、勞働者數十名

■歐洲戰と勞働者の地位……兵庫縣知事 淸野長太郎
□勞働閑話……友愛會々長 法學士 鈴木文治
■(世當)ヅボラ、不仕だら、自墮落一覽表……凸凹坊
□(現代)名士の名言(本野子、阪谷男、早川千吉郎氏、横井博士)……
■友愛會の現狀……板倉定四郎 ■勞働文壇……讀者
□資本家の自覺……商學士 松村吉則
■戰後の經濟政策……法學博士 小林丑三郎

發行所 東京芝區三田四國町 友愛會本部
電話芝五八五五
振替東京三一五七

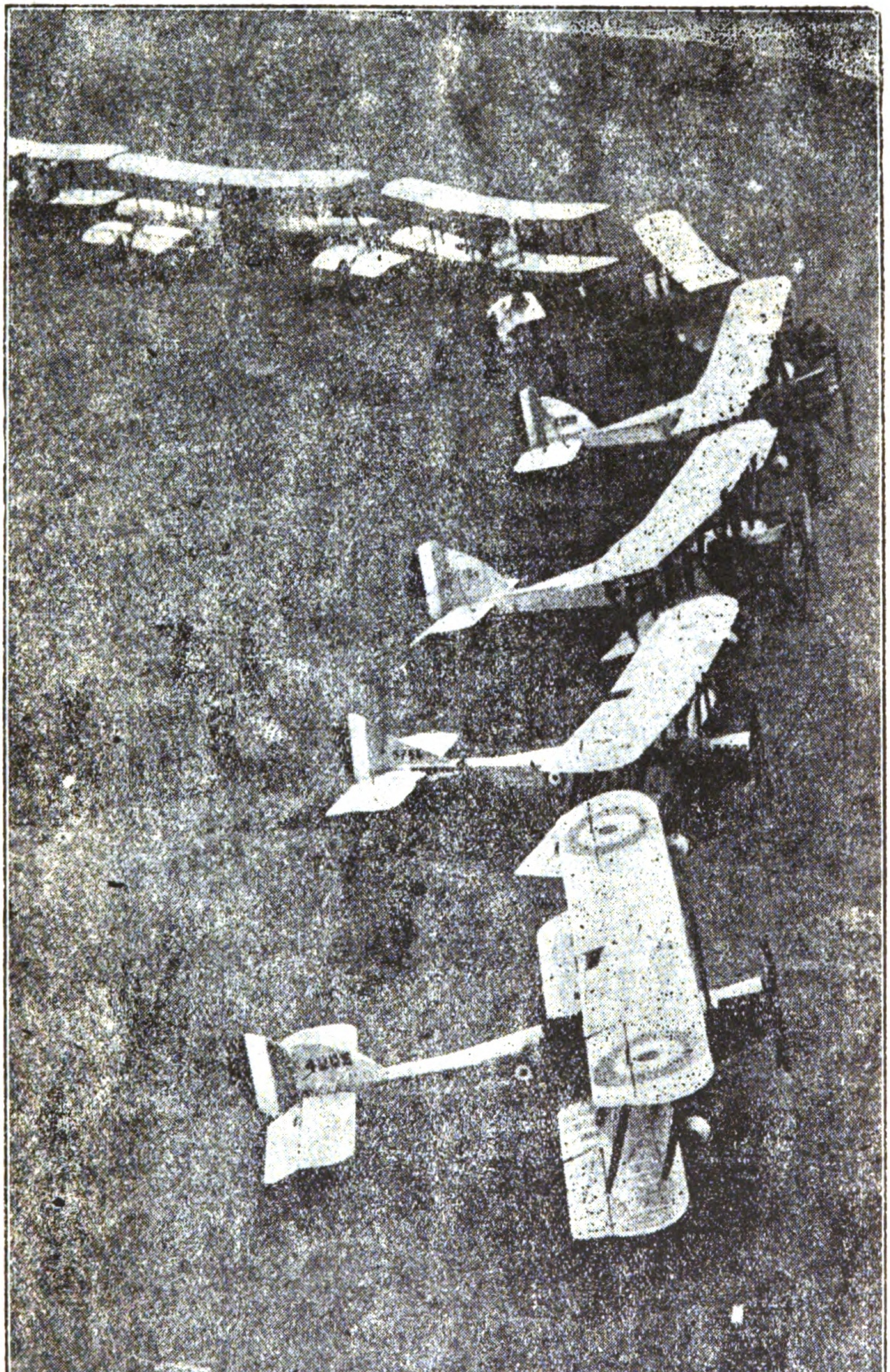
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

友愛婦人

七月號

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

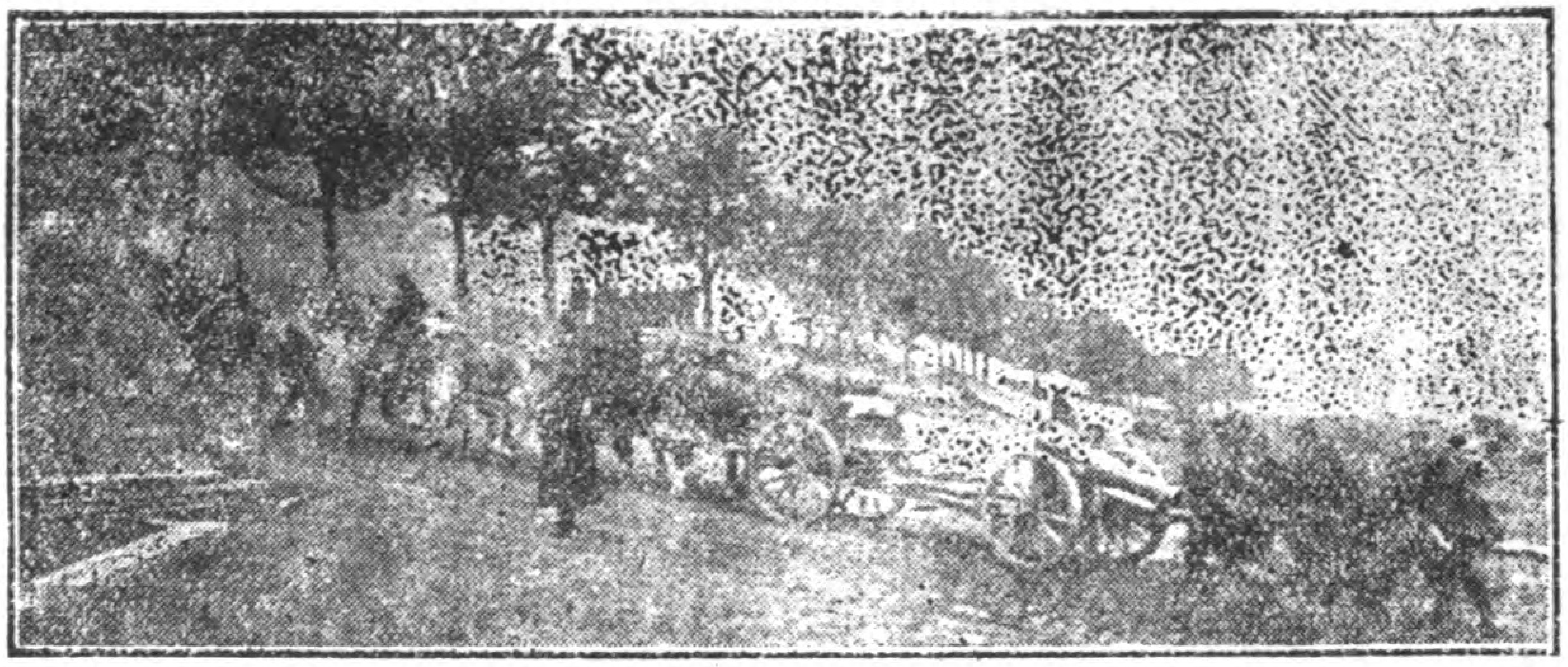
英國の飛行機隊



夏の日の朝の露をうち拂ひ
高くのぼるなる白き飛行機

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

歐羅巴の大戰爭



上の圖は戰線に在る佛蘭西の軍人が、樹蔭に憩み乍ら故郷の事を想つて居るところです。
下圖は留守居役の妻や子が淋しき團欒の有様です。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ためになるおはなし

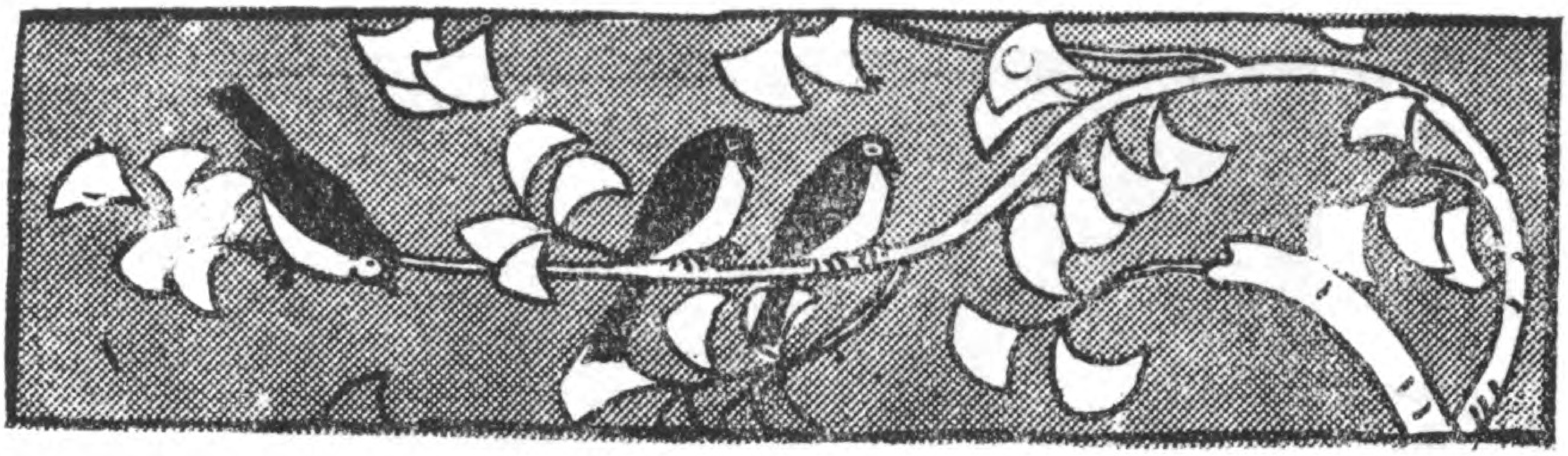
友愛會々長
法學士　鈴木文治

教育

世の中は進んで行きます。男も女も斷へず勉强して居なければなりません。

日本の婦人は昔から、おとなしいと云ふ美風もありますが、また智慧が足りないと云ふ缺點もございます。女が學問ばかりを致しまして飛びはねるのも感心いたしませんけれど、人の夫人でも娘さんでも、工女さんでも女中さんでも、皆んな相當の智識が要ることになりました。米國などは小學校が八年であります、日本は六年。それからフランスや米國は工女の働く時間は十時間以内でありますが、今日の日本は十二時以上も働いて居る處がございます。それで女が本を讀んだり、よいお話を聽いたりする時間が少うございますが、將來の日本婦人――ことに働いて居らるゝ女の方は、ます〳〵智識を磨き、世の中の事は一通り承知して居ると云ふくらいに、教育の力が欲しいと思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



女の働き

今日は女で仲々の働きをして居る所があります。我が國でも一日に五十錢六十錢のお錢を稼ぐ正當な職業を持つて居る婦人は少くありません。

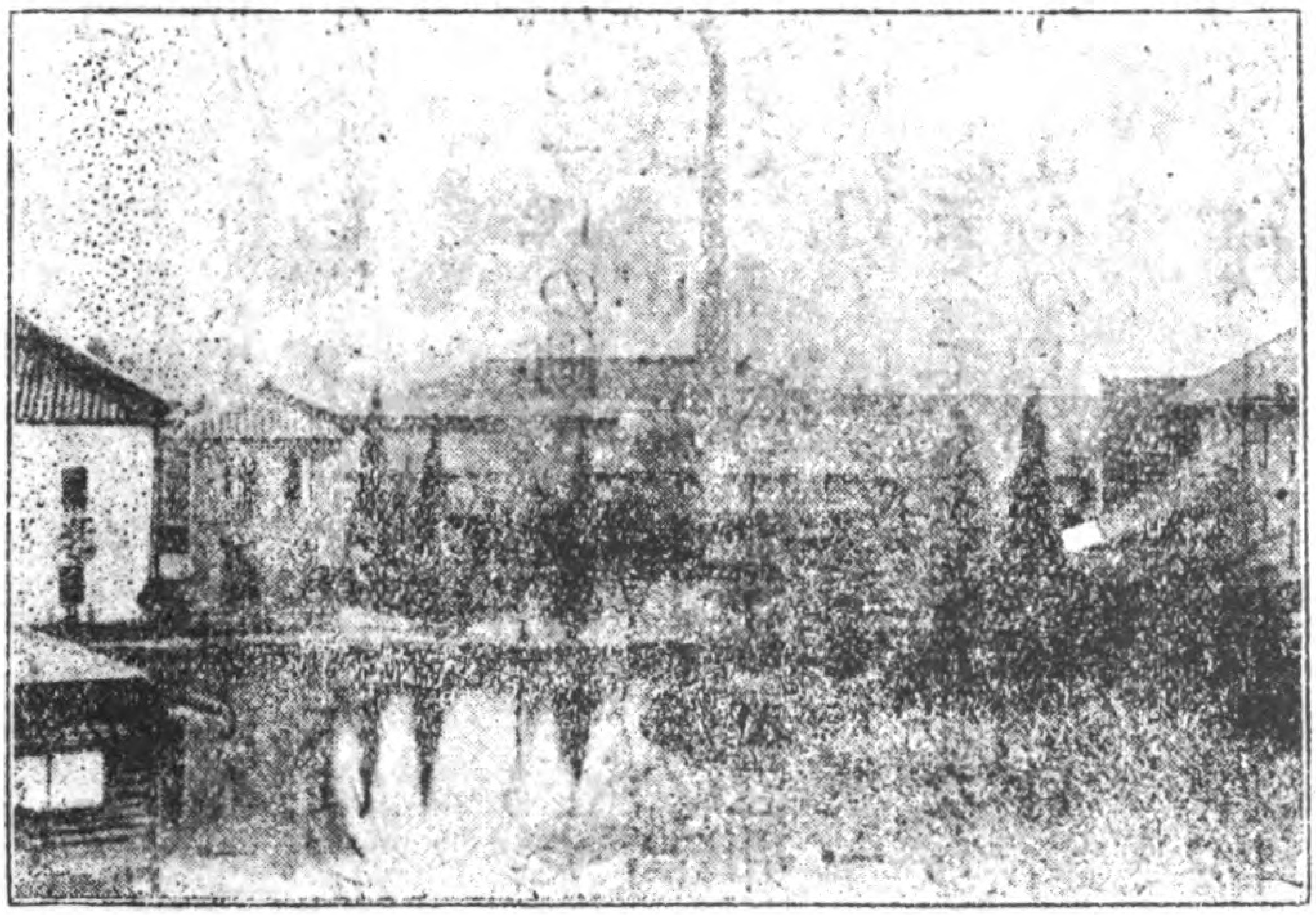
私が米國へ參りました時、彼地の女の一日の働きを調べましたそれに依ると、工場へ出て働く方（工女）は一日一弗で我國の金高で申しますれば二圓、これが最も低い方で、高いのになると二弗五十仙丁度日本の五圓に當ります。商店の賣子はずつと廉く、一週間に五弗から八弗位であります。廉いと云つても一週五弗ならばつまり七日で十圓と云ふ譯ですから、日本の工女の一般給料よりも餘程よいのです。

米國は何故給料が高いか。一つは物價が高い――食物も着物も、みんな日本なんかよりは高いからでありますが、そればかりではありません。即ち米國の女はいゝ腕を持て居ります。何をしても良い頭とよい腕とが大切であります。つまり米國などの女は澤山働くから澤山お錢もとれると云ふ事になるのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

汐の香高き八丈島

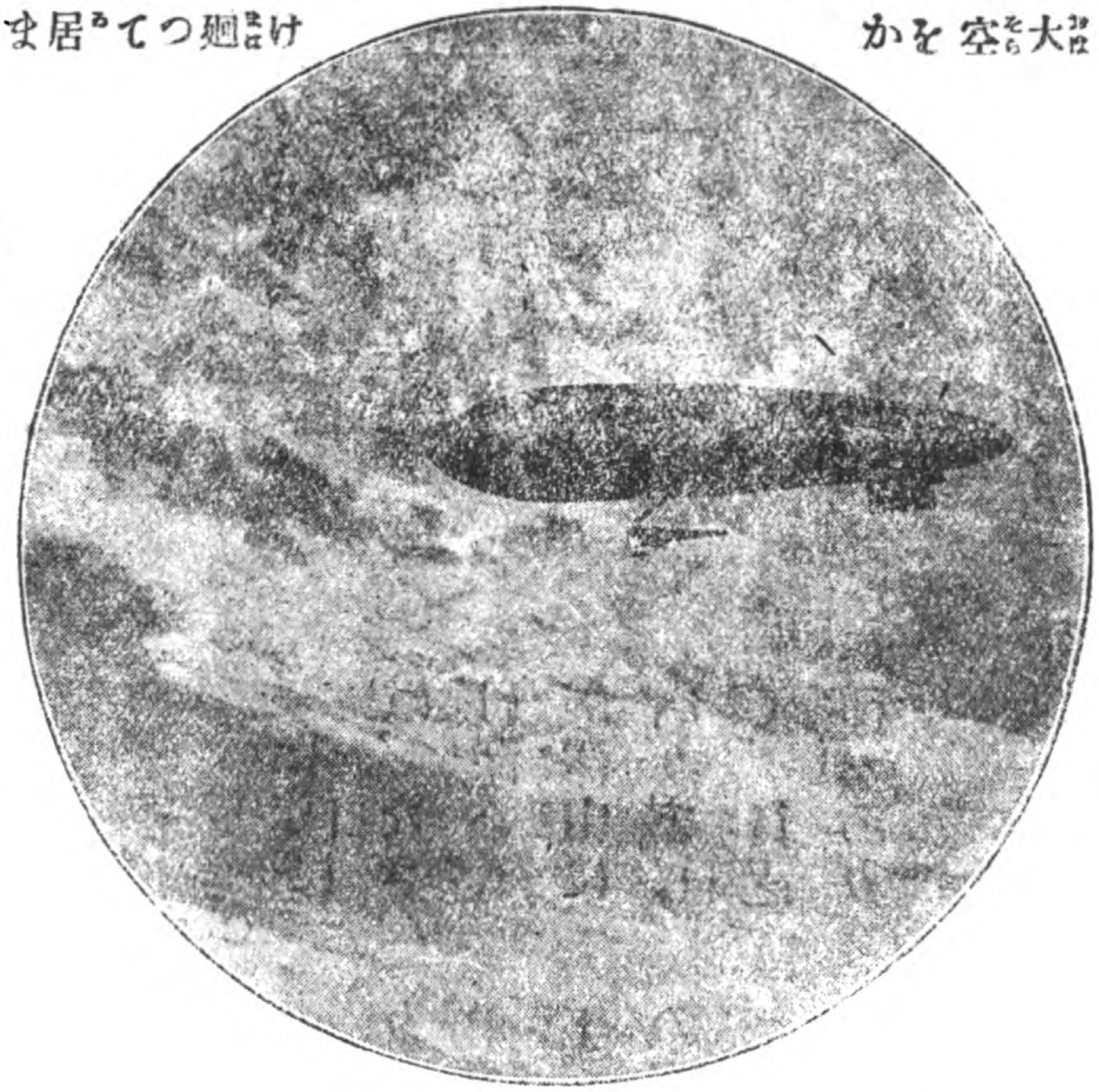
わしが汐汲む沖行く船に
乘て行たや東京へ



左の圖は片倉組製糸工場の東京府下八王子市に在る分工場です田舎で働くよりも都會の工場などで働く女は病氣に罹りやすいから工場の庭の一隅には病院も設けられてあります。

英國の海軍飛行船は圖の如く大きな大砲を備へつけて大空をかけ廻つて居ます

雷にあらで空から彈丸の音



暑き日も天かける機は寒からん

薫風や馬に鞭うつ少女あり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

アメリカの夏

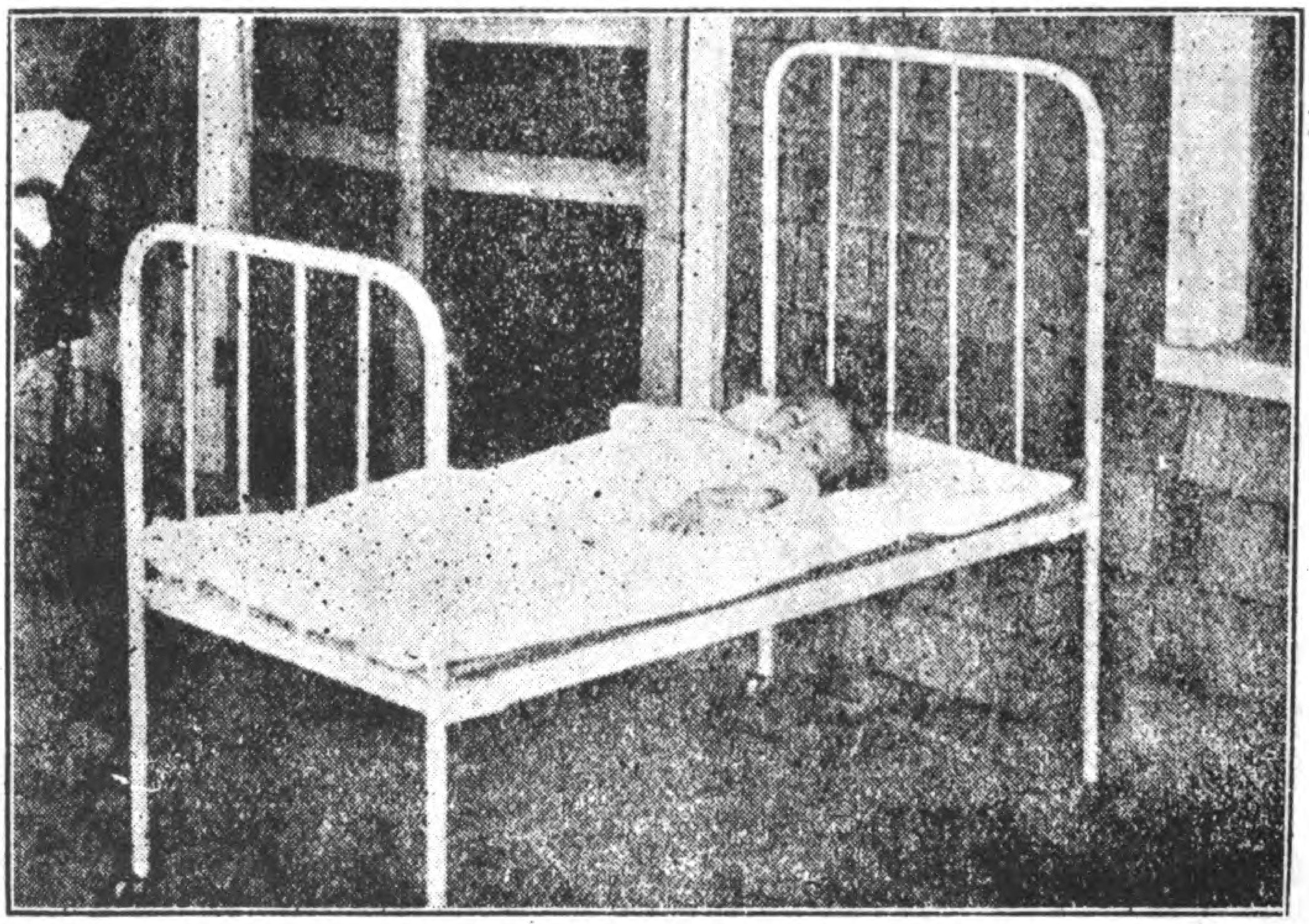
油谷治郎七

米國には、なさけ深い人が澤山に居りまして、貧乏人や憐れな人達を助ける會が種々あります。

夏になると都會の職工の子供は海邊で養はれます。金持の人は自分のお錢で溫泉でも、海水浴でも思ふやうに行かれますが、金が無かつたり暇が無かつたりして、とても避暑どころではない人達――すなはち貧乏の會社員だとか職工だとかの家族の人々は、まことに氣の毒だと云ふので、同情心の深い金持が「細民狀態改善協會」と云ふものをこしらへて、まづしい人にも成るべく樂を與へてやらう、愉快をさせてあげようと云ふ事業を行ふて居ります。それは米國の何處でゝもやつて居りますが米國の中でも一番人が多い、東京市の

三倍もある大都會のニューヨルクと云ふ市では特に大仕掛でやつてゐます、そこは米國で一番金持が澤山に住んで居る所ですが、また一番貧乏人の多い處です。それ故か丶る會が出來て貧乏な人を助けやうとして居るのです。

右の圖は此の會の方で避暑に行つた職工が自分の子供を抱いて海岸を歩いて居るところであるのです。



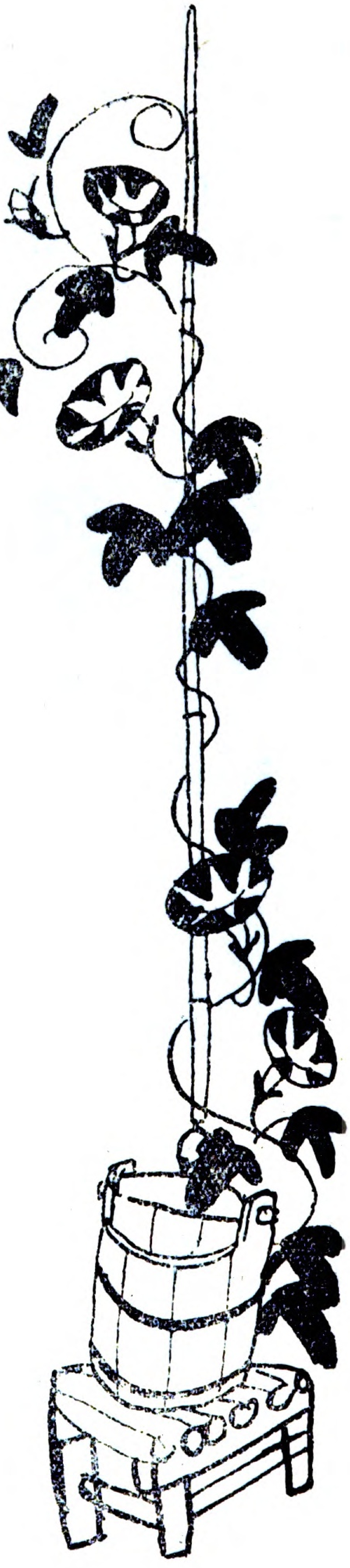
左の圖は此の會の海濱の部屋の内で細民の赤ん坊が美しい寢臺の上で、すや〱と眠つて居るところです。

空氣の惡い、濕氣のある、うす暗い家に、まづい食物を食べて日常住んで居る職工らの家族も、こんな會が出來て夏の盛りに保養も出來るやうになれば、まことに幸福でございませう。日本にもだんだん斯かる企てが欲しいものです。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

小説　豫算

平澤紫魂



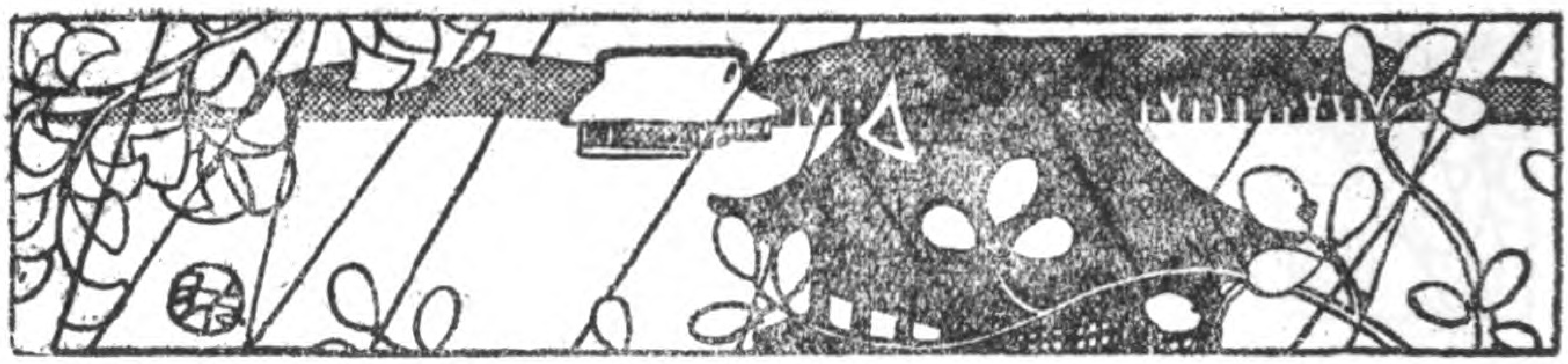
「毎度すまねえが今度だけは助けると思つて、十圓だけ都合して呉れ」と、義理の兄の虎三に頼まれた時「自宅には自宅の豫算があります。豫算外のお助けはお氣の毒だが出來ません」と加藤宗次はきつぱりと斷つて、其豫算なるものを虎三に說き聞かした。

それは宗次の毎月の給料が三十二圓。その中から四圓を家賃、薪炭代を一圓、米代を七圓五十錢、電燈代を四十五錢、味噌醤油代二圓。被服代三圓、瓦斯代六十錢　新聞書籍代壹圓五十錢、雜費三圓、諸掛六十錢、貯金四圓、娛樂費壹圓五十錢合計二十九圓拾五錢を差引いて、殘り二圓八十五錢が豫備費である。

「此豫算の中此間兄さんに五圓お用達しましたのでもう豫備費も娛樂費もありません。お氣の毒ですが全く致し方がありません」

虎三はむづかしい顏をして、長々と說き明す宗次

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



の言葉を聞いてゐたが、フヽンと鼻の先で笑つて、

「そんな七面倒な事は俺みたいの職人にやわからないが、何だなそれぢや金を貸すわけにならんてんだね。」

「お氣の毒ですが」

「それならそれと、それだけでいゝぢやないか、何も長々と御說經するにやあたらねえやな、べらばうめ、賴まねえや」と、江戸ッ子の虎三は、いつものくせで直ぐ言葉を荒くした。何所で飮んだのかや、醉つてゐる。

傍で聞いてゐる虎三の妹、宗次の妻のお菊ははらはらして、

「兄さん、まあそんなに怒らなくつたつていゝわよ、自宅だつて兄さんの事だからさ力になりたいのは山々だけれど、そんなに樂な世帶ぢやないのだからね、」

「大きに左樣だらうよ、月々澤山な貯金をしてよ、それで樂な世帶ぢやねえからか、ヘン左樣だらうともよ、自分達の生活さいよくなれば、兄弟なんて他人の初りだな、什麼なつたつて關ふものかよ。」

「そんなわけぢやないけれど兄さん。兄さんにした所であまり金使が荒過ぎると思ふはよ。」

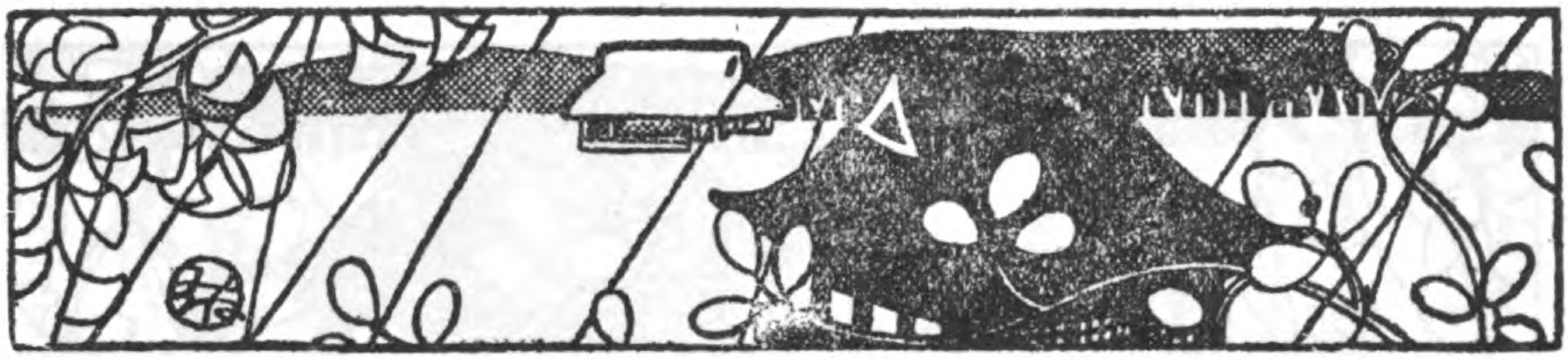
「何だと」と虎三は眼に角たてゝ、

「餘計なお世話だ。俺の事は俺の事だ他人のお世話にやなりませんよ。」

「そんな兄さんわからずやを云つて」と、妹は淚ぐんで、傍にゐる夫の宗次に氣兼しながら、

「此頃は景氣がいゝから兄さんの所は自宅よりも澤山お金になるつて話でせう。それだのに今月も足りない、又今月も足りないつて……………

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



「度々お寶を拜借にあがるもんだから、お亭主に對してすまないつてんだらう。全くお氣の毒樣だ、やくざな兄貴をもつて嘸御心配でせう。」

「あら兄さん。」

「だからよ、もう之つきりあがりませんよ兄妹の緣を切れば文句が無いだらう。」

「何ですつて兄さん。」

「もう、兄でも無い妹でも無いつてんだ、べらばうめ、お互へに困る時に助け合ひはこそ親身の兄妹だ、いや什麼もお邪魔しましたね」と、虎三はよろ〳〵と立上る。

「まあ兄さん待つて下さい。」と妹が泣聲で云ふのを耳にもいれず、よろけ〳〵表口から出て行つた。

「まあ待つて下さいつて云ふに」とお菊は其後を追掛けた。默つて兩人の樣子を見てゐた宗次は、靜かに、

「お菊」と呼ぶ。

「はい」と返事しながらお菊は表口で、兄の袂を捕ひてやるまいとして何やら云つてゐる。

「お菊」と又宗次。

「はい。」

「呼んだら來ないか。」と、やゝ言葉が荒々しい。

「今行きます。」と云ひながら歸つて來たお菊の眼にはいじらしや、淚がぎらりと光つてゐる。

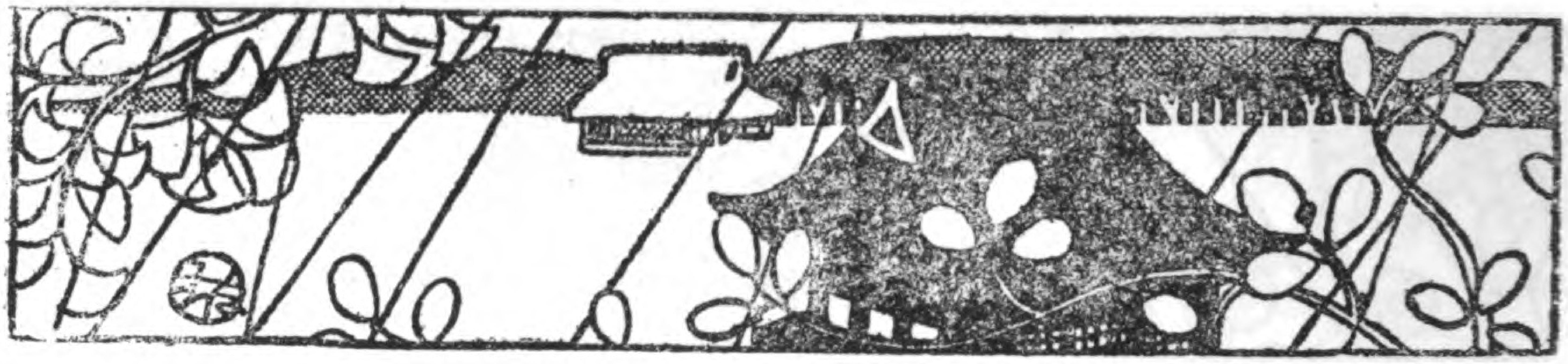
「歸る人は歸したがいゝ、それが兄さんの爲めだ。お菊お前手に持つてゐるのはそれは何だい。」

「はい。」と、氣がついて見ると、お菊は自分の手の中にぼんやり純金の懷中時計を握つてゐた。

「それをお前什麼するのだ。まさか兄さん

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



に貸してやるつもりぢや無かつたのだらうね。」

「えゝ」と、お菊はどきりとした。實は兄の困るのを見兼ねて、一時の急場除に虎三に渡さうとしたのだが、其事を正直に夫には云はれず、と云つて此場を何と云つて言譯したものか。と困つて默つて顔を赤めると、

「はゝゝゝゝ」と宗次は今迄の事はケロリと忘れたやうに笑つて、

「其時計で思ひ出したが、いつ迄經つても指環一つ買ふ事も出來ない生活で氣の毒だなあ」と云つた。

お菊はほつと安心の息をついて、

「えゝ、兄さんが何のかんのと云つて來て全く相濟みませんわねえ。」

「お互ひに心配だらうが、まあ〳〵其中にはいゝ時節も來るであらう。時にもう今晩は何時だらう。」

お菊は柱時計を見上げて、

「もう九時過ぎよ。」

「すつかり夏らしくなつたね、いやに今晩は蒸暑いぢや無いか。お茶を一ぱい頂戴しやうかなあ。」

「はい。」と、お菊は長火鉢の上に、睦じく夫婦茶碗を並べてそれにお茶を注ぐ。

「水菓子を尠し頂戴するわけにはなりませんかね奥さん。」

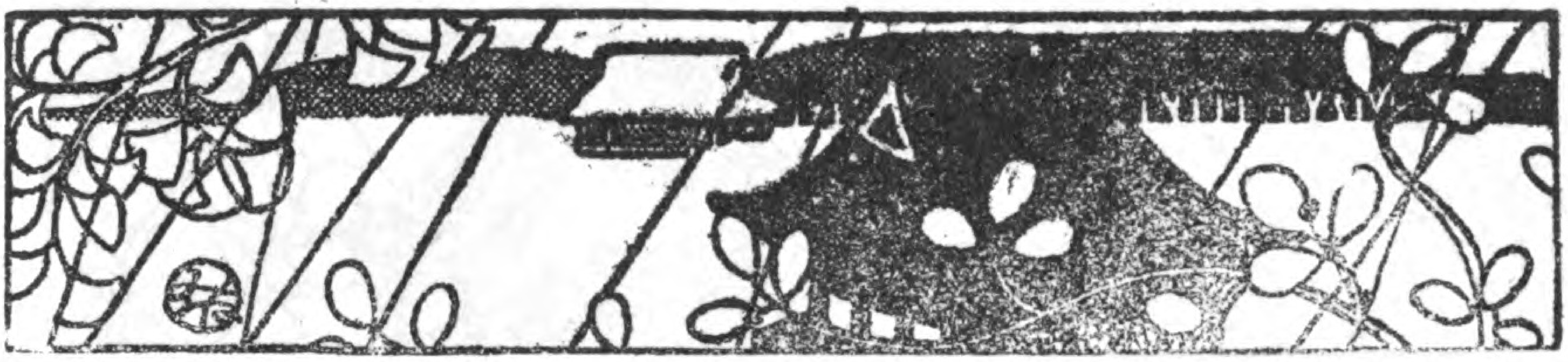
「貴郎。」と、お菊は其張のある眼で凝乎と夫を見る。

「左樣左樣」と宗次は頷いて、

「今月は娯樂費も豫備費も無くなつたんだつけね、仕方が無いからお茶だけで我慢しやう。」

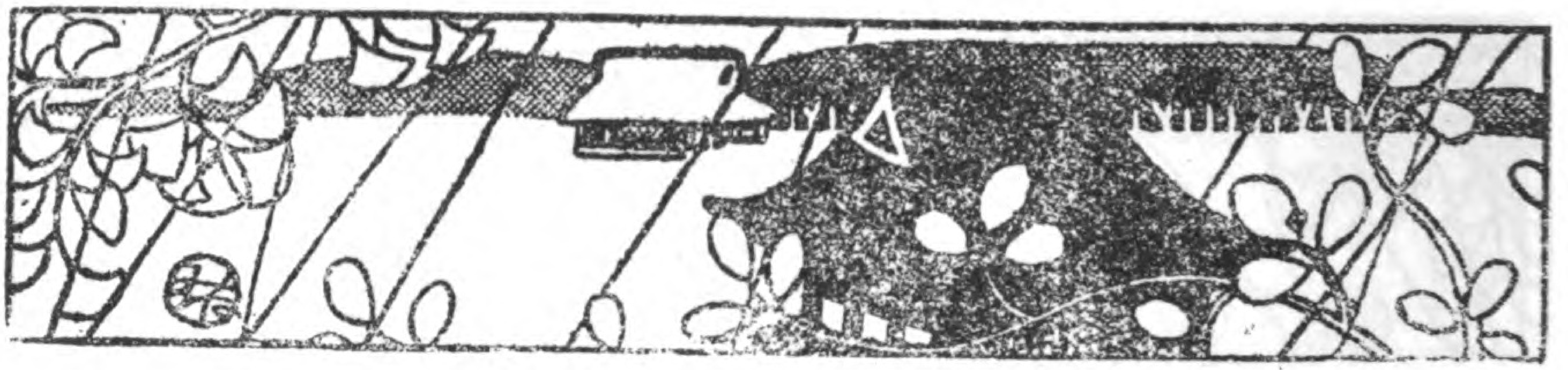
「それに貴郎」とお菊は云ひにく相にもじ〳〵したが、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



「安物でいゝから單物を貴郎のゝと、私のゝとこしらへねばなりませんわ。」
「去年のゝで間に合はないかね。」
「それや、間に合はない事も無いけれど」
「それぢや間に合はせるんだね。」
「でもゝゝゝゝ。」
「什麽したい。」
「でも先月も先々月も被服費は手をつけなかつた筈ですけれど」
「あれはね尠し使ひ道があるんだ。」
「いつも左樣被仰いますけれど、使ひ道つて何になさるの。」
「いまにわかるよ。」
「それにおかしいわ、先月も、ねえ先々月も新聞書籍費は新聞代の外御使用なさらないんですもの。」
「あれも使ひ道がある。」
「ですから其使ひ道つて何になさるの。」
「はゝゝゝゝゝ。」と夫は笑つて、
「おい茶のお代りだよ。」
「あら貴郎はお話をお茶になさるのね」と、夫の顏を優しく睨んだ。
其夜寢てからもお菊は眠れなかつた。兄妹の縁を切ると云つた兄の言葉も氣にかゝるが、あまり度々兄が無心を云ふので、夫に自分が愛素をつかされはしまいかとも思ふ。疑つて見れば、夫が此頃の金のきりつめ方はたゞごとでは無い。衣類もこしらへず本も買はず全體あの金を何にするつもりなのであらう。もしや、もしやと思つて傍に眠つてゐる夫の顏を凝乎と見つめた。熱い淚がはら〳〵と零れた。
「貴郎。」と呼んで見た。宗次は晝の勞れでぐつすりと氣持よく眠つてゐる。
、、、、チンチンチン。もう黎明の三時。何所かで鷄の鳴聲がした。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



＊　＊　＊　＊　＊

金は敵と世間では云ふ。宗次と虎三との間が金を借せ貸さぬと云ひ合つて氣拙くなつてから一月過ぎた。

間に挾つたお菊は何とかとりなしをしやうと思ふのだが、夫にいくら願つて見ても宗次はたゞ、

「又時節が來るよ。」と言ふばかり、まるで取合つて吳れず、女氣の獨できなく〳〵心配してゐたが、其上に猶ほ氣がゝるになるのは、夫の宗次が夜の夜中に何所へ行くのか床を脫け出したのも一度ならず二度ならず昨晚も長い間、夫の出て行つた後で獨りお菊は泣かされた。もしや、もしやと、何かしら疑はしい事ばかり增して來る。

とう〳〵忍び切れず、

「貴郎、昨晚は何所へゐつしつて？」と、何氣ない風で云ふつもりだつたが、言葉の中頃から思はず知ちず涙聲になつた。宗次は案外平氣で、

「何だい知つてゐるのかい。」

「知つてゐるつて貴郎、昨晚ばかりぢや無いぢやありませんか、それあ私がお氣に入らぬ所がたくさんあるかも知れませんけれどあんまりだと思ひますわ。あんまりだと……」と、とう〳〵泣き出して仕舞つた。

「はゝゝゝゝゝ。」と宗次は相變らず平氣で笑つて

「奧さん妬いていらつしやるな。」

「貴郎！」とお菊はやゝ强い聲で、

「さあ貴郎原因を話して下さい、原因を？」

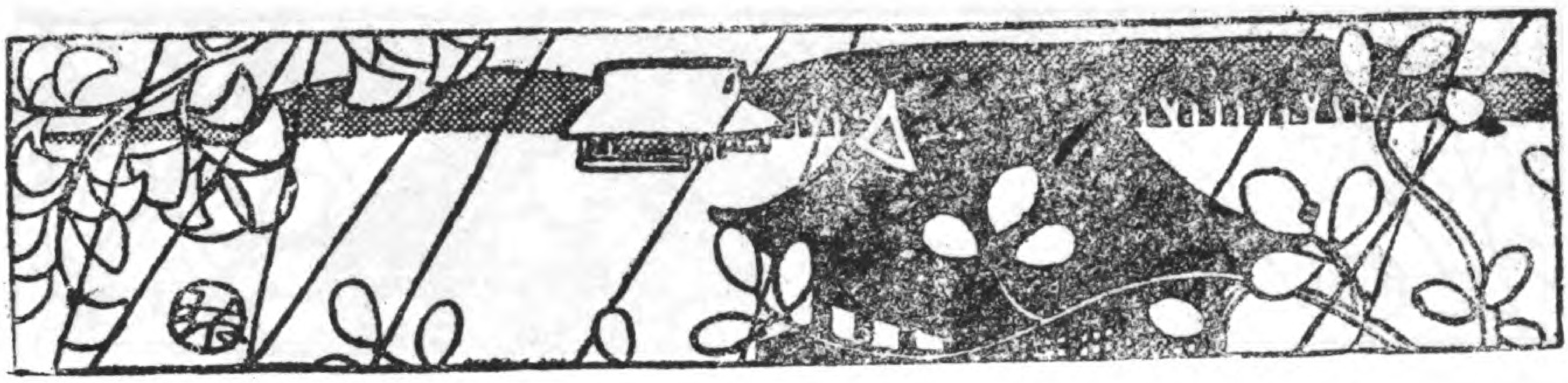
「原因はわかる時にわかるよ。」

「まあそんな水臭い事を、私と貴郎とは夫婦ですわ。」

「夫婦で無いつて誰か云つたのかい。」

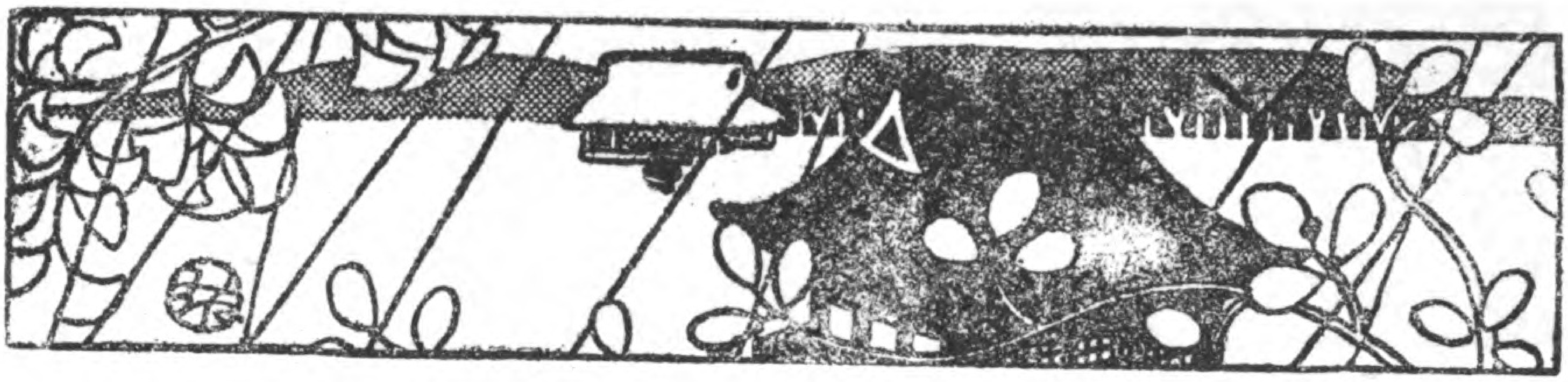
「夫婦だつたならさあ被仰い。正直に被仰

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



い。」
「それは困つたな。」と、宗次が頻りと困つてゐる所へ、未だ朝飯前だと云ふのに、ちつとも姿を見せなかつた兄嫁のお君が狂人のやうになつて飛んで來た。
「まあ姉さん什麼したつての」と聞くと、
「私ね什麼しても宗次さんの力を借りなきやならない事が出來て仕舞つたんですよ、あゝ此間中からいろいろ我儘を云ひ張つてすまなかつたね、まあ私が此通り謝罪るから其事はさらりと水に流して、什麼か御足勞でもいゝ智惠を貸して貰ひたいと思つてねえ。」
「全體それは什麼な事です。」と宗次が聞くと、
「良人がね工場を解傭されるやうな事が出來て仕舞つてね。」
「まあ」とお菊は吃驚する。
「折角永年ゐた工場を追ひ出されるなんて私什麼しやうかと思つて」と、お君は泣き出したいやうな聲で云ふ。
「何故又解傭なんて事になつたんですの。」とお菊も心配相に聞くと、
「それがね、」とお花は、恐れ憚るやうに聲を潜めて
「止せばいゝのに良人のが工場から、」
「工場から?」
「工場から石炭を持ち出してね。」
「まあ、何故そんな惡い事をするんでせうねえ。」
「何ね初めはわからなかつたのだけれど、まあいゝ案配だと思つて居ると。」
「ではもう長くやつてゐるんですか。」と、正直物のお菊は我知らず鋭い聲で云ふ。
「えゝなに。」とお君は言葉を濁して、
「左樣云ふわけでも無いけれど、昨晩とう

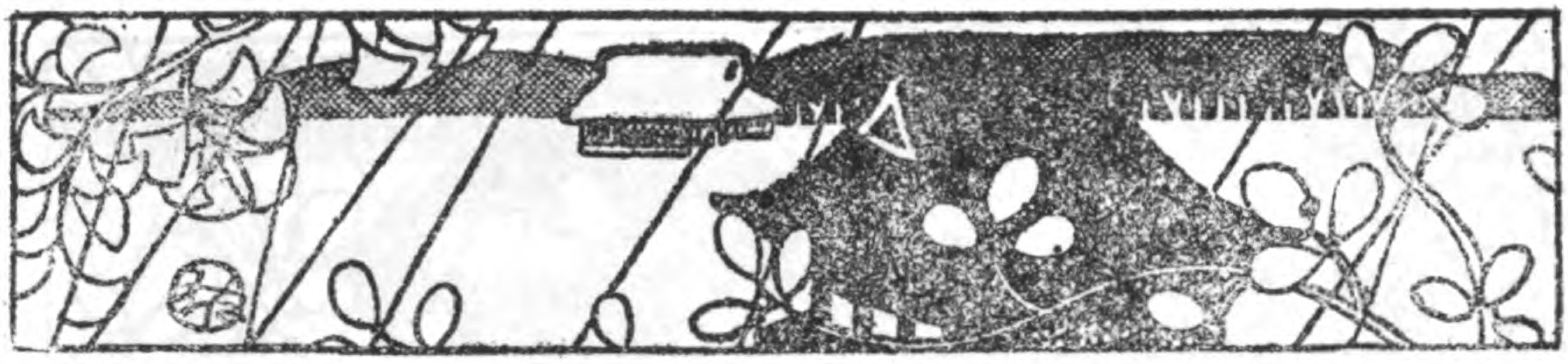
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



とう見付つて仕舞つてね」
「それは左樣ですとも惡い事はいつかしらわかりますわ。」
「……………」
お君は默つてお菊の顏を見つめたが、
「そんな事は云はずにね、困つてゐるんだから、ほんとに什麼かしてね、宗次さん全くお願ひですよ。」
「什麼して見付かつたんです。」と宗次。
「石炭をね、宅の庭迄持つて來たんですよ昨晩は徹夜だつたからね、夜の一時頃の話さね、すると垣根の外でね。誰の聲だかわからないが、ちやんと見屆けた。石炭盜賊を見屆けたてつ怒鳴つたんだつて、私はね寢てゐて什麼も變だと思つてゐると、良人のが血相變へて飛び込んで來てね、早く早く宗ちやん所へ行つて來て吳れつてね、良人のはあれでゐて案外氣が弱いんだからね什麼か助けると思つて………」
「よろしい承知しました。私が引受けました。」と宗次は氣持よく引受けて、
「兎に角もう出勤時間です、いづれ晩によく話しませう、晩に兄さんも私の所へ來るやうに被仰つて下さい。いろ／＼お話致したい事もありますから。」
「それも左程だらうけれどもね、今日だけはお願ひだから工場を休んで力を借して貰はれまいか、日當は何なら拂つてもいゝから。」とお君はお君だけの事を云ふ。
「はゝゝゝゝゝゝ」と宗次は笑つて、
「日當所の騷ぎでもありますまい。然しどんな事があつても工場は欠勤しないと云ふのが私の覺悟です。いづれ晩に御相談致しませう」と云ひ捨てゝ。宗次はいつもの通り工場へ出勤した。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



其日の晩は空はカラリと氣持よく晴れ渡つて、お星樣は嬉し相にチラチラ煌いて、そよ〳〵と風が凉しく木々の薫を運んで來る。町を歩いてゐる人達はみんな快さ相に微笑み合つてゐるが、犯した罪の報ひで虎三夫婦は心配と苦しさとに心をいら〳〵させながら宗次の宅を訪れると、宗次の宅では線先に蚊防線香を焚きながら夫婦は何やら話し合つてゐたが、お菊の眼にはきらりと涙が光つて見えた。

「いろ〳〵これから話したでせうが、什麼か一ツよろしく宗ちやんお願ひしやす。」と虎三は妹婿にぺこぺこ頭を下げた。

「飛んでも無い事をしたもんだね兄さん。」と宗次の聲はいつもと違つて屹乎としてゐる。

「全く心得違をして仕舞つたね。」

「では兄さんは全く惡い事をしたつて事がわかつたですか。」

「そらあお前、全くどうもね、すつかり心を入れ替へやうと思ふんだがね。」

「左樣兄さんが改心すればもう何も云ふ事は無いのだが、實は兄さん工場の方へはもう話をしてあります。」

「へえもう話をして吳れたのかい、すまなかつたな、そして何と云つた工場ぢや。」

「今度だけは見て見ぬ振をして置くつてね。」

「其奴は有難い」と虎三は吐息をホッとついた。

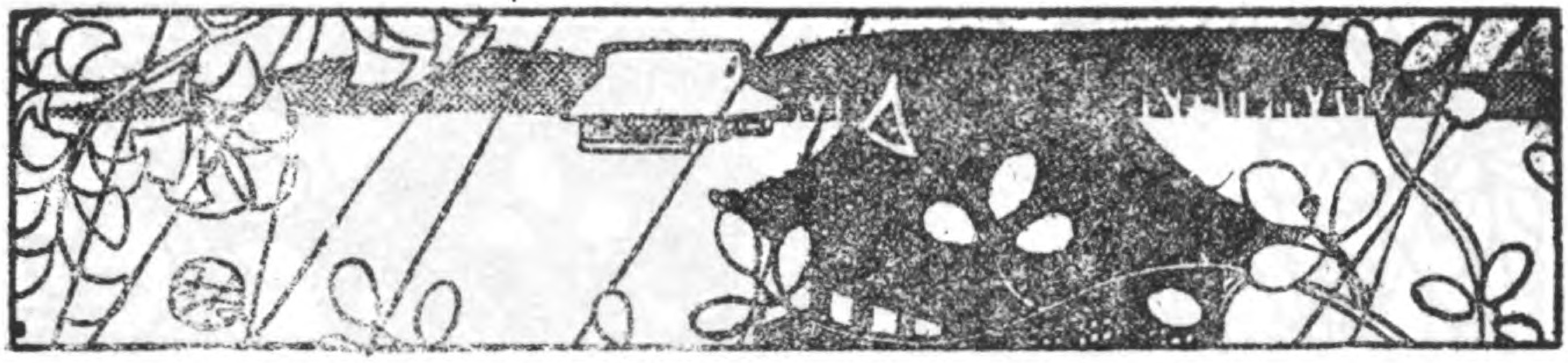
「其替り此後こんな事があると用捨はしないつてね。」

「なあにもうこり〳〵した。」

「お前さんほんとによかつたね、宗ちやん有難う。」とお君はお禮を云ふ。

「ぢや宗ちやん、いろ〳〵お骨折ですまな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



かつたし、此間からむかつ腹を立てゝ久しく御無沙汰をしたしするから、其仲直りに一升買ふとしやう。お君お前先へ歸つてな何か用意して置け。」

「まあお待ちなさい。」と宗次はお君を止めて置いて、

「兄さんそれがいけないと云ふんです。そんな無駄な金を使ふからつよひくない心も出るんです。」

「えゝ」と虎三は眼をぱちくりする。

「今晩私はみつしりと兄さん達に話さねばならない。」

と宗次はきつぱりと云ひ切つて、

「兄さんが工場から石炭を持ち出した。然しそれはまさかそれを賣り拂つて金にしやう爲めぢやないんでせう。」

「左樣とも左樣とも。」

「自宅の風呂を沸す爲めなんでせうが、まあ今日も石炭を一俵持つて來た。之れを買へば一圓位する。一圓だけ買つたと思つて飲んで仕舞へつて、早速石炭が酒に化けるんでせう。」

「そ、そ、それはそんなもんだ。」

「ごらんなさい、それではたゞ後へ殘るのは盜みをしたつて惡い氣持だけでせう、惡錢身につかずとは其事だ。それからあゝ今日は工場で面白くない事があつた。やけ酒だ。今日は一本增せつて云ふでせう。」

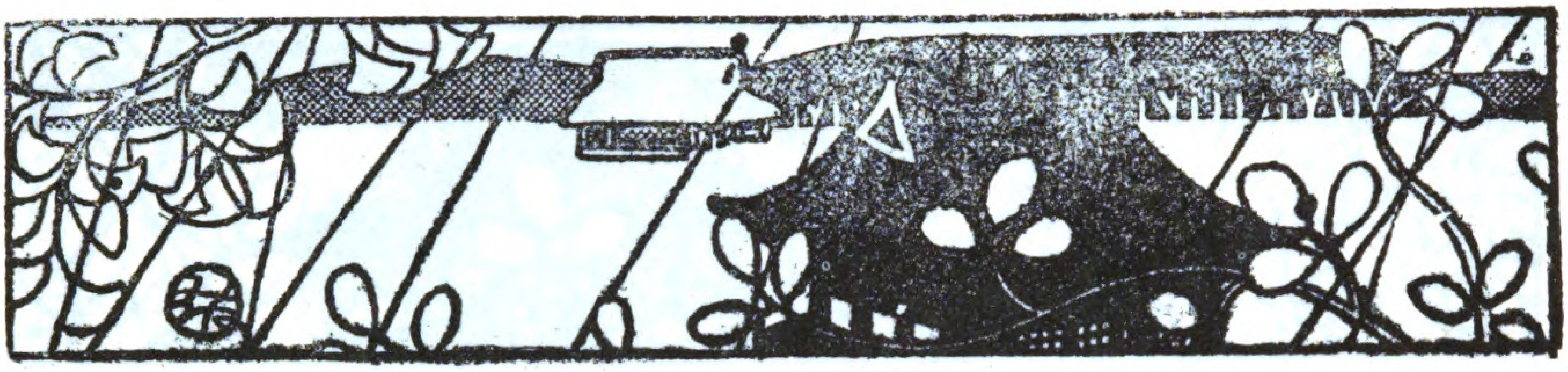
「そ、それは、まあ無い………」と虎三が言葉を濁してゐると、

「良人は始終左樣ですよ、全くよ。」と傍でしみ〳〵左樣云はれる時の辛さが身に染みてゐるらしくお君が云ふ。

「それでは姉さんの經濟のとれやうがありません。」

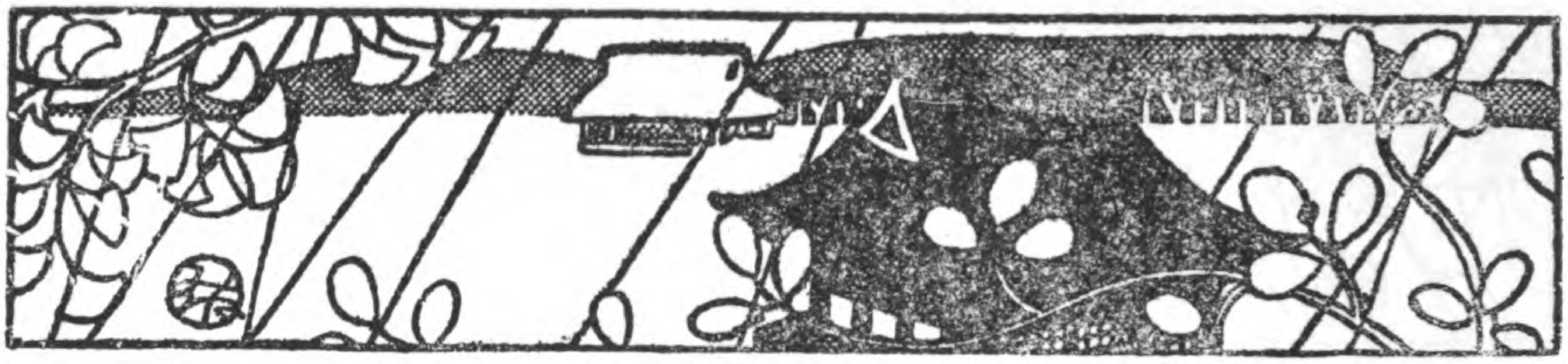
「全くよ」とお君は嬉し相に云つて、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



「此人が酒さへ飲まなかつたら宅の經濟は全く樂なのだけれどね。」
「姉さんの云ふ通りです。だが姉さんは毎日毎日いくら位かゝつて帳面をつけてゐますか」
「そらあね……」とお君が言葉を濁すのを引つたくるやうに虎三が、
「此奴はそんなものちつともつけやがらねえだ。俺がつけろつけろと云ふんだがな。」
「まあ此人は。お前さんいつそんな事も云つて、」
「平常云つてゐるぢやないか、べらぼうめ手前がそんな量見だから宅はいつでも貧乏してゐるんだい。」
「嘘だよ、宅の貧乏はねお前さんが酒を飲むからだよ」
「何云ひやがるんだ此亞魔、亭主の留守に子供のやうに買喰をするんだらう。」
「いつ私がそんな事をした、お前さんはね此間もね酔つぱらつて何所へ行くかと思つたら、いゝかい云つてやるよ。」
「云つて見ろ。亭主の惡口を云ひやがつて」
「まあ／＼左樣喧嘩したつて仕方が無い」
と宗次は虎三夫婦の喧嘩を止めて、
「まあ私は云はせれば兄さんにも惡い所がある。姉さんにも惡い所がある。然し一番惡いのは兄さんの宅に生活方がちやんと定つてゐないのが惡いのだ。人間の宅にはね百圓とる人は百圓だけのくらし方がある、五十圓とる人には五十圓とるだけの生活方がある。二十圓には二十圓の生活方がある日本の國にはちやんと大藏省があつて日本の國の生活方をきめてある。工場では工場で、ちやんと會計が工場の豫算をたてゝある。」
「へえ。」
「私の宅でもね、ちやんと豫算があるんです。一月には家賃が四圓、米代が七圓五十錢、瓦斯代が六十錢と云ふ風にねちやんと極つてあるんです。だから餘計な金はちつとも使へない。餘計な金は使へないから貯金も出來るわけです。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



「私什麼も不思議に思つてゐるのは宗ちやん所でもいつもこざつぱりした服裝をしてゐながら貯金もしてゆくのに、自宅ではいつまでもみじみな服裝をしてゐながら借金が殖える。其くせ良人の方が宗ちやんより給料は上なのだかね。」と、お君はしみ〴〵と云つた。

「其所です。」と宗次は言葉に力を入れて、

「其所が一月の豫算をたてゝやるとやらないとの違ひです。無駄使すると無駄使しないとの相違です。惡い事は云はないから、兄さん所でも自宅のやうに豫算を立てゝおやりなさい。左樣したら貧乏も借金もいつの間にか逃げ出して仕舞ひます。はゝゝゝ」と宗次はいつものやうに快く笑つて、

「一體ね此頃は職人の景氣がよし、へたな月給取より職人の方がずつとお金が殘らねばならない筈なのだが、それが殘らないと云ふのは乃ち豫算が立つて無いからです。」

「だがね、借金や何かあるとやけくそになるし、つい七面倒臭くなるから、つい一杯と云ふ氣にもなるんでさあ。」と虎三。

「それがいけないんだ兄さん」と宗次は强い聲で云つて、

「全體兄さん所では借金がいくらあるんです。」

「借金か、左樣だなあ。かうつと、二十圓位のものかなあお君。」

「そんな事なものか。」

「ぢやいくらあるんだ」

「左樣ですねえ。」

「やつぱりわかりないんでないか。」

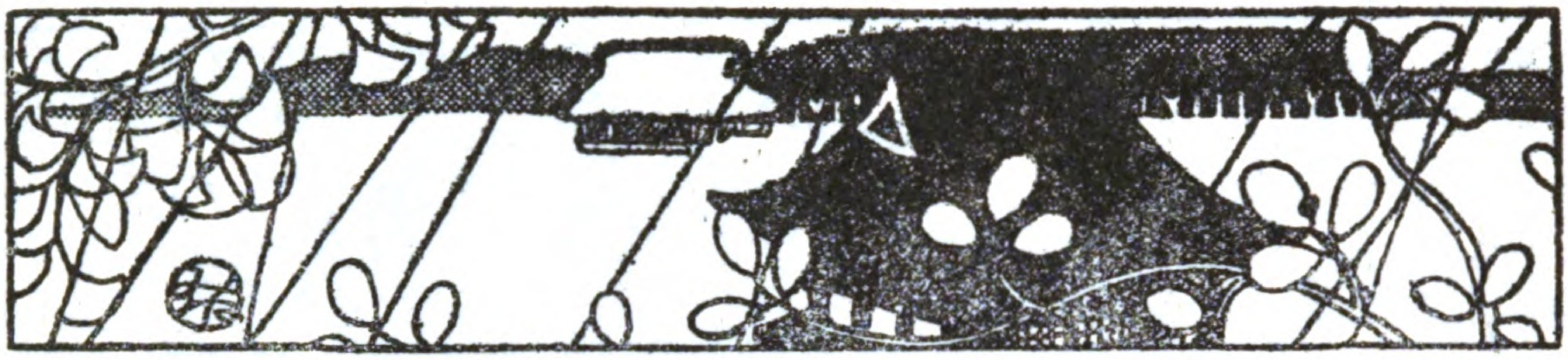
「はゝゝゝゝ」と宗次は又笑つて、

「それがいけないんです。自分の宅の借金を自分が直ぐ考へ出せないやうぢや仕方がない。兎に角斯樣しませう。私も兄さん達の事では隨分心配してゐますから私が今金を二十圓出しませう。」

「えゝ」と、みんな吃驚した。

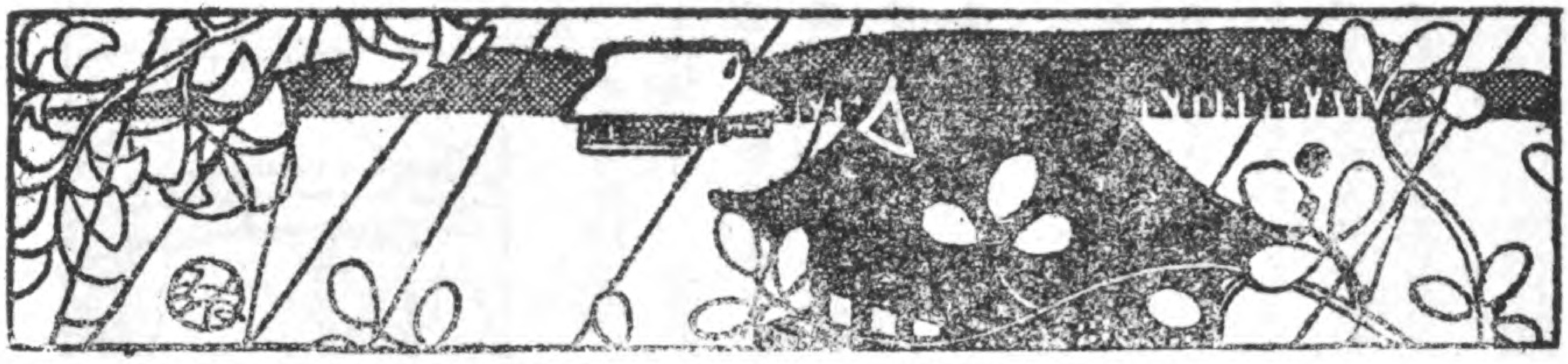
「之れは私の宅の衣類費と新聞雜誌費を儉約した金です。之れで整理をつける所は整理をつけ、繰延の出來る所は繰延をして、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



之れからは豫算をたてゝきちんとやつて行く事にしては什麽です。」
「有難いな其奴は、すまねえな全く。だが其金は貰ふわけにはならねえ」と、江戸ッ兒の虎三は云ふ。
「兄さん、貰はうの貰はないのとそれは水臭いと云ふものだ。わけさへわかつた金ならお互ひに助け合ふのがいつかの兄さんの文句ぢやないが之が眞實の親身の兄妹だ。」
「こいつは一本參つたな」と虎三は頭をかく。
「其代り之れならば安心が出來ると云ふ時迄、兄さん所の豫算は私が立てゝ生活方を私にさして貰ひたい。あゝお菊」と、宗次は自分の妻を呼んで、
「未だお前に相談しなかつたが、衣類費と書籍雜誌費を儉約した二十圓の金を兄さんの所へやるに異存はあるまいね。」
「それはもう異存も何もありませんが、貴郞！」と夫を見たお菊の眼から涙がホロリと零れ出た。
「什麽した」と宗次。
「私の兄さんの爲めそんなに心配して戴いて……何にも云へません、有難うございます」と涙聲で云ふ。
「まあお菊さん。私等こそ飛んだ御迷惑をかけて」と兄嫁のお君が涙ぐめば、人情にからまるのは江戸ッ子の常、虎三迄が鬼のやうな眼からポロリと涙を零して、
「すまねえ、す、すすまえ。」と喚いた。
虎三夫婦が喜び勇んで歸つた後、お菊は夫の前にきちんと兩手をついて、
「私お詫びをいたします。いろ〳〵御心配して戴いてゐるのに、何故貴郞があのお金をお使ひにならないんでせう、もしも何か外に何するのでないかと思つて、實はお怨み申してゐましたわ。」
「はゝゝゝ」と宗次は相變らず笑つて、
「未だお詫びをして貰にやならない事があるやうだぜ奥さん。」
「えゝ、未だ？」
「實はね、此頃夜起き出して外へ行つたの

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



は兄さんの様子を見る爲めだつたのだ。何かしら惡い事があつたらそれを種にすつかり意見をして眞人間になつて貰はうと思つてねそれで兄さんが石炭を持ち出した時、垣根の外から聲をかけたのは實は私なんだ。

「まあ！」

「骨を折つたり、今朝のやうに怨まれたりしちや割に合はねえな」と、いつもの通り冗談と云ふと、お菊は感極つて、わつと泣き出し、夫に犇と縋りついて、

「貴郎はまあ、貴郎はまあ」と、後は云はれず、感謝の涙を止め度も無く夫の膝の上へ零し流した。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

娘曾我

三浦樂堂

尼崎幸右衛門の妻のお豊は花耻しい美人でございました。其美しさに横戀慕した岩淵傳內と云ふ鬼のやうな惡侍は幸右衛門の留守を覗つて、酒の元氣でお豊を口說いてゐる所へ、歸つて來たは夫の幸右衛門。烈火の如く怒つて傳內と切合を初めたがあはれや、傳內の爲め慘い最後を遂げ、傳內は風を喰つて何所とも無く逃げ失せて仕舞ひました。

お豊は妹婿の關根元右衛門に引取られて、味氣無い世を送つてゐるのも、其時胎に宿した亡夫の子を產み落して、其子を成人させ、父の無念をはらさせやう爲めであります。あはれ。其子は男の子であれかしと妹夫婦ともども神佛に祈つた甲斐もなう、月滿ちて產れた子は女、しかも其時產婦は產の爲めに夫の後を追つて歸らぬ旅へと行つたのでありました。

四

待たぬ月日は經ち易く茲に早くも十七年、猫の尾だと云はれました嬰兒は今や十七の娘盛り、或日のこと妹婿の夫婦は一間の中で『何時まで斯くしても詮ないことであるから夫れでは、そなたの言葉に從つて娘を呼んで因果を含め其上更めて娘として育てることにしやう。それではそなたお里也を呼びなさい』

『はい』と答へた女房は間の襖を靜かにあけまして

『お里也、里也』

と二聲三聲、

『はい』

と返辭も淑やかに襖越しに兩手をついた娘のお里也

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『召されまして何か御用でござりますか？』

『おゝ、りやか、そこでは話しにくい、ともかくも此處まで來なさい』

夫婦の者は今更にまた顔を見合して何か頻りに云ひ兼ねて居る模様でありましたが、軈てのことに元右衛門は重き口を開き

『今迄はそなたも未だ幼なかつたし聞きわけの程も覺束ないと思つたので明白には云はなかつたが何を隱さうお前は私等夫婦の實の子ではないのである。そなたの兩親は夙に此の世を去て佛壇に飾つてあるお前が朝夕禮拜を遂げる、彼の二つの位牌がそなたの爲めの父母である。』

十七年の春秋を眞の親と思ひしに、甘へて育つて來た此の身の父母は、眞の父母でないと聞いたお里也の驚きと哀みは如何ばかりでありましたらうか、暫しの間は言葉もなく茫然として居りましたが、二つの眼からは涙が玉をなして流れました。

『今までは左樣なことゝは存じませず甘へて育てゝいたゞきましたが、それでは妾の父母は此の世の人ではなかつたのでござりますか。』

『おゝ、たゞ父母は此の世の者ではないばかりならまだしもだが。そなたの父は人手に罹つて非業の最後を遂げたのである。また母親はそれを苦に病み、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

そなたが生れると間もなく夫の後を慕つて歸らぬ旅に急いだのである。』

と、これから幸右衛門最後の有様からお豊が臨終の有様まで、涙ながらに語つて聽かせました。

首を垂れて聽いて居りましたお里也は始めは頻りに涙を滾して居りましたが、一什始終を聞き終つた時には、堅き決心を其面に現はしまして、

『だん／＼との御話、よくわかりましてござります父の無念、母の憾み、さこそと思ひやられます。たとひ女とは云ひ乍ら斯樣なことを承りましては此儘にしては居られません。どうぞ只今から私に御暇を賜り度う存じます。』

驚いた元右衛門は

『して、そなた何處へ行くつもりぞ』

『お尋ねまでもございません、父の仇、母の敵の傳内とやらを訪ねて、親の仇を打ちたいと存じます。』

『これ／＼、無法なことは云ふまいものぞ、先きは堂々たる男一匹、ことには武藝の手練も淺からざる奴、か弱き女のそなたの身に、何で仇うちなど思ひも寄らぬことである。その志を聞いただけで泉下の父母はさぞ滿足のことであらう。必ずともに及ばぬことを希ふでない。』

と色々になだめすかして見ましたが、性來勝氣なお里也は、いつかな思ひ止る樣子もございませんので、夫婦の者も今は根氣が盡きまして、それでは當人の思ひにまかせてやらうと云ふことになりました

これから後はお里也は朝夕武藝を學ぶことに志しまして、殊に薙刀を熱心に稽古致しましたが、人の一心ほど恐ろしいものはございません。お里也の腕の進むには敎へる方が舌を卷くほどで、これより三年の後に至りまして、お里也はとうたう薙刀の秘術を究めて天晴の腕前となりました。

時しも藤崎東馬と申しまする御側御用人が勤めを帶びて江戸表へ出發致すと聞きましたお里也は、養親を通じて、東馬に頼み、ともに江戸表へ連れて行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て貰ふことになりました。これは敵の傳内が江戸表に近き親戚を以て居ると云ふことを豫ねて聞いて居りましたので、或は江戸表に居りはしまいかと云ふ考へを以て居りました爲であります。

　さて愈々東馬につれられて江戸表には到着いたしましたが、何處をたづねていゝものやら、たゞ江戸表とばかりでは仇を尋ねることも出來なせんので、何でも之は廣く方々を探すに限ると思ひましたので、お里也はこれから諸方に下女奉公をすることになりました。

五

　當今は婦人の仕事の範圍も漸々廣くなつて參りましたのに、下女奉公を望む者もだん〱尠くなつて參りました自然の結果と致しまして、使はれる方の鼻息が漸々荒くなつて參りまして、やれ彼處の家は人使ひが荒いとか、給金が細かいとか、食物が惡いとか、遊ばして呉れないとか、種々な理窟をつけまして會ま傭入れましても長く辛棒をする者は殆どございません。其上に教育の普及とやらの結果で、やれ主人がこんな失敬なことを云つて妾を侮辱したから、向ふが誠意を以て謝罪すれば格別、でなければ相當の辯護士を賴んで黑白を堂々と法廷に爭ても謝罪さして見せるなぞと云ふ。エラい喧しい方がありまして、お三どんを使ふには先づお三どんに對する言葉使ひから研究して掛からなければならんと云ふ面倒な世の中になつて參りました。けれども昔はそんな物騒なお三どんは欲しいと云つて鉦太鼓で探しても滅多にございません。

　お里也が最初住み込ました家は小石川の或る旗本の家でありましたが、行儀正しくして萬事に忠實々々しく、骨身を惜まずに働きますので、主人の方では大層之を喜んで長く奉公して貰ひ度いと思つたでございませうが、お里也の方には仇の手掛りを探す上に何の價値もない家だと云ふことがわかりましたので、惜まれて止められる袖振り拂つて其家を出まして、これから次から次と、家を更へて奉公すること七十餘軒に及びまして、茲に十有八年の歳月を全く無駄に送つて了ひました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

衛生講話

妊娠と出産

王誠病院長女醫　吉岡彌生

妊娠の注意

妊娠と云ふのは受胎してから二百八十日間と云ふので是等の間胎兒は胎内に居て生れるのです。倍丈夫な子供を產むには受胎前の母の攝生と父の攝生が大事であります、更に溯つて云ひますと、結婚をする時、男女双方の體格に申分なければ是に越したことはありませんが、そうでない場合は双方の體格上の弱點を互に異にして居ると云ふことであります、例へば男の方に呼吸器の疾患のあるなら、女の方は是れが丈夫で——若し弱點があるなら消化器に弱點のあると云ふやうなものを擇んで結婚をするのであります、此の如くしますと互に双方の弱點を消し合つて、生れた兒供は丈夫であります、是れに反して若し双方同じ弱點を有する男女の間に生れたものはそれが重り合つた小兒か生れるのであります。

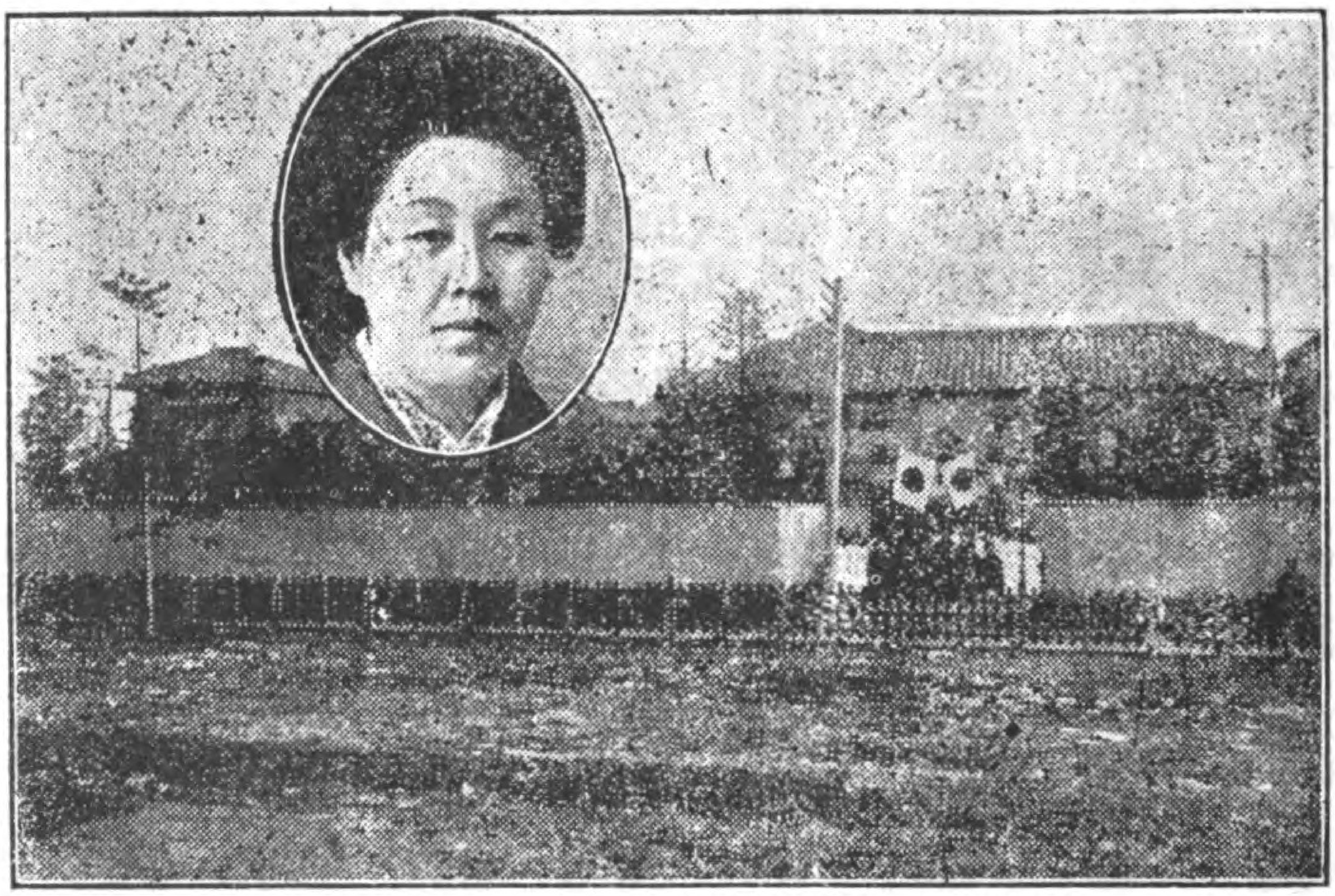
然らば父母の病氣中で何が一番惡るい影響、遺傳を小兒に與へるかと云ふと、それは梅毒であります。若し父母の一方に梅毒があれば早產、流產(五月内に生れるを流產と云ひ、六ヶ月以後九ヶ月目までに生るゝを早產と云ふ)をする惧れがあります　假令また生れたにしても一二ヶ月で死ぬとか、身體が纖弱で一二年で死ぬるなどが多い、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

是れを先天性梅毒と云ひます、そこで若しも一度流産、早産をしたことがあれば、今度懐姙した時は、必ず醫師に血液檢査をして貰つて、若し母體に梅毒がなければ進んで父親の血液を檢べて貰はねばなりません、而て何れかに梅毒があるとすれば三ケ月目に驅黴療法をする（三ケ月目と云ふのは此の時になつて始めて姙娠と云ふことが醫師に判るのです）假令父親の方に黴毒があつても既に胎兒に遺傳し居ますから母體の驅黴療法すればそれでよい、その療法には種々ありますが一番安全なのは注射療法である、隔日に一回宛二十回も繰返す、若しそれでもいけなければ今一回繰返すか、場合に因つて六〇六號の注射をします。

世間に往々流産、早産の癖のあるとか、又は子供が育たないと云ふ人がありますが、是れは大抵男女の何れにか黴毒があることが多い、私共は此の事を人に注意して幾度感謝されたか知れません。

次は父母の中に大酒家がありますと、生れた小供が弱くて腦膜炎に罹ることが多い、而して是れには今日未だ適當の療法がありませんから、結婚前に十分に調査をしなくてはなりません。



東京至誠病院と吉岡院長さん

姙娠と胎教

姙娠は生理的であつて病氣ではありませんが、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

身體と精神に異狀を來し易く、殊に神經過敏になり易く、是れが胎兒に影響することは少々でありませんから、成丈神經を靜め、心を平靜にして居ると云ふことが大切である、昔から胎內敎育と謂つて、此期限には精神の修養につとめることを敎へましたが、是れは仲々味のあることで、成る丈神經を勞せないやうにして、思慮分別の心を强くし、殊に喜怒哀樂の情が强くなり易い時であるから是を抑制するのが大切である、昔から妊娠中のことに就ては種々の傳說がある、例へば火事を見れば赤痣のある子を生む、癩病患者を見ると不具の子を產むと云ふやうなことは、何もそんな譯はないが驚愕、嫌惡と云ふやうな强い感情に支配されるのを禁じたものであります。

次ぎには人の多く集る所に行くこと、過激な運動が惡るい、と云つて運動不足で消化不良になるのも惡るい、妊娠中と云つても家の中で平生する位の仕事をして何も惡るいことはない許りでなく是非共適當運動をしなくてはなりません。

周圍の人もよく此等のことを心得て、成るべく慰安を與へて、神經を過勞せしめないやうにし、食物も刺戟性のものを避けて、運動として郊外散步位が一番適當であります、讀書も稗史小說のやうな感情的なものでなく、道德、宗敎の書籍、傳記、紀行の如きものが宜しいのであります。

乘物は市中の電車位は差支ないが、それも臨月位までゞ、臨月になれば是も控へたが宜しい。能く汽車で故鄕に歸つてお產をしたいが差支はないかと尋ねられる場合があるが、是れには醫師は責任を以て御答は出來ません、間違がないこともありましやうが、醫師は萬一を憂へますから。

臍の緒

次は臍の緒であります、是れは產婆の仕事でありますが、臍の緒を切つてから、胎兒は初めて母躰と分離して一個の人間になるのであります。是れを切るのは素人がしないで是非產婆に依賴しないと、此の切口から黴菌が入つて、丹毒破風傷等に罹ることがあります。

是れも產婆への注意になるが、子供が生れる時

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

產道に淋毒があると是れがために眼が潰れることがありますから、產湯を使はせる時に、硝酸銀水の點眼をするが宜しい。

產湯は日に一回は必ず使はせねばなりません、それから胎內は外氣よりも溫度が高いから秋から初春にかけて生れた時は湯たんぽを使はせなくてはなりません。而してつとめて靜に寢せて置いて見舞人などが替る替る抱き上げるのは甚だ宜しくありません。

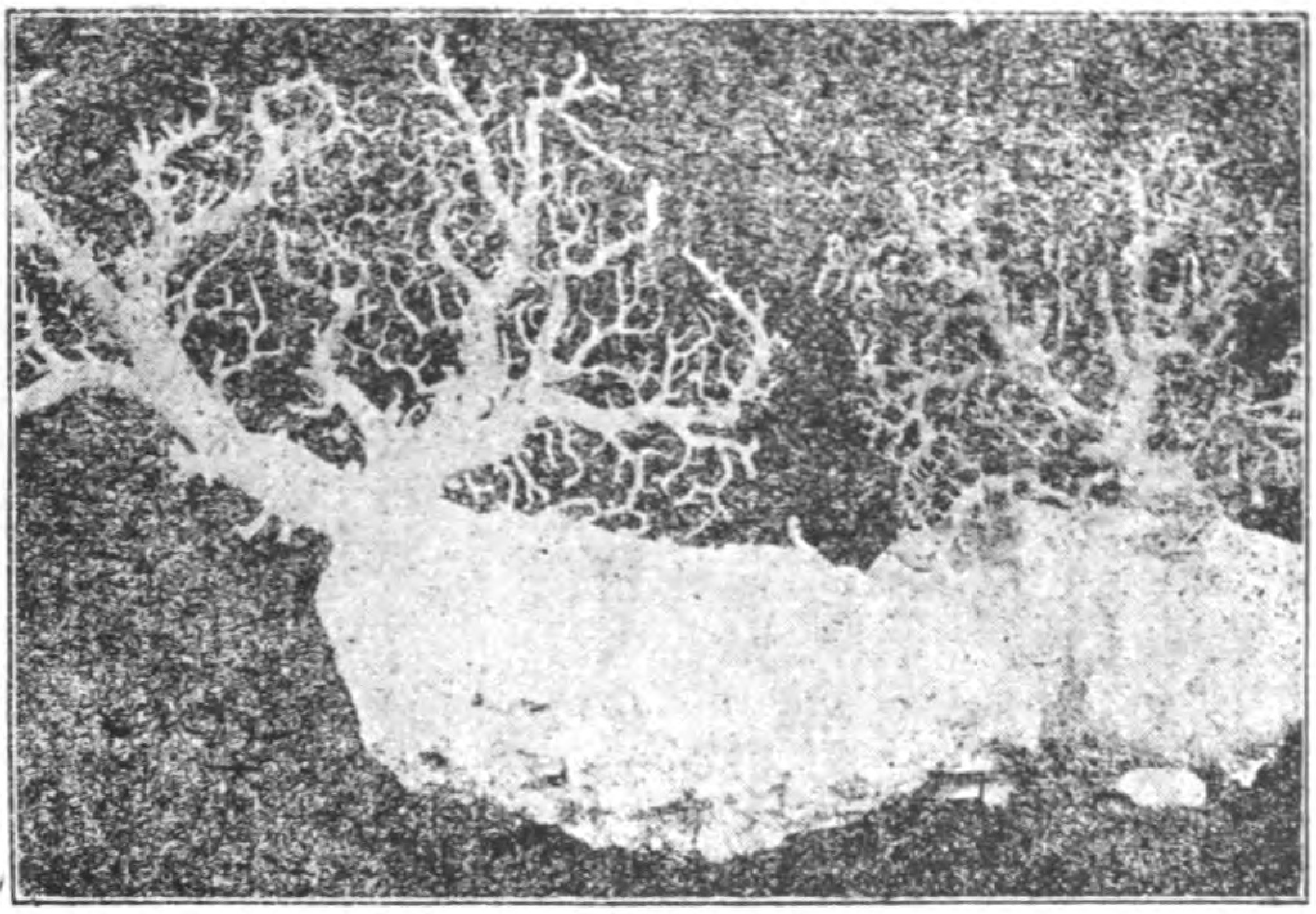
小兒の泣くのは構はん

小供は產れると泣きますが、乳を與へるに及びません、子供に因れば口から泡を吐きますから是れは宜く拭き取つてやります。一晝夜の後になりますと空腹を感じますから、此の時、水三、牛乳一の割合に混じたるもの――是れは四分の一乳と云ひます、――を三時おき位に飲せます。此の間に昔から乳の代用として、毒下しなど云ふて飲ませる藥がありますが、是れは却つて胃腸を害ふ恐れがありますから差し控へた方が宜しい。翌日になると母乳がありますから愈是れを二時半每に飲ませますが、その前に乳房をよく熱い清潔な布巾で拭いてから小供にふくませます、是れは黴菌の附着して居るのを恐れるのであつて乳を與へる時は何時でもそうする方が宜ろしい。茲で注意をせねばなりません事は、母乳は日增に多く出るやうになりますが、每日一回か二回か宛矢張牛乳を與へることであります、それは母親が所用のため外出するとか、病氣にかゝるとか、或は乳の出ぬとか云ふ時の準備でありまして、此の習慣を付けて置かないと、そんな必要が起つてから俄に飲ませやうとしても小供は飲みません。

それから乳を與へる時間を一定して置くことは育兒上、極めて大切なることでありまして、先づ一回十分位であります。

嬰兒に依りては小便を一時に二回も三回もすることがあるから、是れをよく注意せねばなりません、また、胎糞と謂つて黑色の糞をしますから是れをよく拭き取らないと、冷えて消化不良や、寒冒にかゝることがあります、でありますからお襁褓をよく取り換へることは大切でありますから、よく注意するのが肝要であります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



さんご

貴婦人の、おつむりに、
きれいに光る、珊瑚の玉。
珊瑚玉はどこからくる？
南の國は土佐の國。
海原はるか漕ぎ行きて、
小さき孤島の沖合の、
何千尺の海底に、
花と見まがふ珊瑚樹を、
海女が水をば潛り行き、
命がけにて採つて來る。

226

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

工場講話

工女の幸福

警視廳工場課長　宮本貞三郎

宮本さん

工場法が實施になつて、工女の働く時間は一日に十二時間を越してはならぬと云ふことになりました。働く時間が長ければ身體の為めにならぬから、役所では斯う云ふ**法律**をこしらへたのであります。ところが面白いことには、今迄一日に十四時間も十五時間も働いて居た工場で、仕事を十二時間に縮めたところが、不思議にも仕事の出來高は却つて始めよりも多くなつた工場がいくらもあります。これは今迄のやうに長く働いて居ては休む暇もなかつたのに、働く時間が短ければ静かに身體を養ふ事も出來て身體に元氣がつくから從つて仕事も餘計出來ると云ふのであります。

休息と云ふ事。疲れを慰めると云ふことは實に大切な事であります。併し其の休み時間が長くなつたからと云つて、無暗に遊んでばかり居ては何にもなりませんから、よく氣をつけて休息時間を、よく利用する事が必要であります。（以上は記者が宮本様より承つた話でございます。）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家政講話

お臺所の注意

甫守文子

お臺所は人の生命をあづかる大切な所でありますから充分に氣をつけなければなりませんのに、世間のお臺所を見るに案外なげやりにしてあります。私は誰にでも手易く出來る事で、そして大事な事を少しお話いたしませう。

臺所はあの通り食物をつくる處で、そしてじめ〳〵した處でありますから、清潔と乾かすといふ事が第一に大事であります。皆樣のお臺所にある布巾はいつも眞白にそして乾いて居りますか、布巾が醬油で煮しめたやうな色をして、おまけにぷんとにほひがする、びしよ〳〵ぬれてゐるといふやうなのはいけません。布巾を絞つた水を一滴顯微鏡にかけて見ますと、澤山のバクテリヤがうよ〳〵して居ります。いくらお茶碗を研いたり清水で幾度も洗つたりしても、そのバクテリヤの澤山ついてゐる布巾でふいては、折角の骨折が無駄になつて仕舞ひます。庖丁や鍋釜を洗ひぱなしのお宅がありますが、あゝして置くと赤くさびが出て來ますから必ず奇麗にふいておく事をわすれてはなりません。又、お臺所の風呂敷といふと何處のお家のもきたない、私は食物をつゝむお臺所の風呂敷こそ一番清潔にしなければならないと思ひます。前掛も大概の人は、着物がよごれない爲と思つていらつしやるが之は大間違と申さね

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ばなりません、着物についてゐる塵や埃がお料理の中に入らない爲にかけるものなのです。着物よりもきたない前掛などをかける事は以ての外な事であります。それから雜巾も淸潔にしたい、きたなくびしよぬれになつた雜巾をお臺所の板の間に置いて、そこへらのよごれた時、それでふき廻し、洗ひもしないで又その儘板の間になげて置く、足がよごれると板の間に來て、雜巾にこすりつけて行く實にその雜巾のきたない事はお話になりません左樣な雜巾を臺所に置くのは丁度バクテリヤの山を臺所につんで置くやうなものです。雜巾はどうせぬらすものだからといふ人もありますが、なるべく乾かし、使ふ時だけ水につけるやうにしたいと思ひます。次に箸の事について申上げたい事があります。あの衞生のやかましい西洋人でさへもナイフやフォークは持主が定つてゐません、めい／＼がちやんと持ち、そしてそれを箸箱に入れるといふやうな事は日本人だけで大いに自慢してよいところです。處が實際氣をつけて見ますと何の甲斐もない仕方である、御飯の濟むとお茶碗に注いたお茶の中で二三度がよ／＼と振つて、その儘洗ひもせず箸箱の中に入れる人が多い、その位の洗ひ方では食物のかすがまだ澤山ついてゐます、おまけにふかずに箱の中に入れるのですから水氣が充分あつてバクテリヤはいたりかしこしと殖ゑる事が出來ます、又、箸箱の中はめつたに掃除しないので、この中にどれ程か澤山のバクテリヤが居りませう、日本人は折角よい事をして置いても、こんな風ですから困ります。箸を洗ふ時も澤山の箸を一しよに握つて水の中につけがしや／＼と二三度もんで、その儘布巾で一回しごいて濟ます人がありますが、あれなどもいけない、必ず一本宛洗ひそして一本づゝふかなければなりません。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

□□□□□□□□□□□□□□□

恐しい黴菌の話

堀七藏

之からよく物が腐つたり黴が生えたりします。然し之は腐つたから黴が生えるのではなく、黴が生えたから腐るのであります。物が腐つても黴の生えない時があります。その時はバクテリヤといふものが出來たのである、このバクテリヤは非常に小さなものでも三萬位つないで働く一寸位の長さになる又芥子粒位の大さにするには六億も集めなければなりません、御飯粒に一つのバクテリヤが付いてゐるのは丁度人間一人が富士山にとまつてゐる位の割合になつてゐます。このバクテリヤの力には人に害になるもの、益になるもの害にも益にもならぬものとの三種ある、味噌、納豆、糠味噌の出來るのはバクテリヤのおかげである、又、私共が物を食べて消化するのも、唾液や胃液の中にある一種のバクテリヤの働きによるのであります。斯樣に有益なバクテリヤであるが、最も多いのは有害のバクテリヤでございます。このバクテリヤと黴とを一所にして普通黴菌と申して居ります。黴菌は極めて小さいものであるが、又その殖える事は實に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

夥しく早くそして多いのです。假に一時間に一つの黴菌が二つづつに分裂して殖えてゆくとすると、二十四時間には千六百七十七萬七千二萬十六になる、二十分間毎に分裂すると二百八十一兆五億になるであります、實に恐しいものではありませんか。

次にバクテリヤが殖えて物が腐るのはどんな場合であるかを申上げませう。

バクテリヤは大層水分が好きでありますから乾いた處には繁殖しません、又、あまり熱い處、あまり冷たい處も好まぬ、相當の溫度の處であると遠慮なく襲つて來ます、ですから驅除法としてはかれらがよつて來る事の出來ないやうに臺所は勿論部屋の中、戸棚押入、夜具、着物などは乾かして清潔になし、又、魚のやうに滋養があつて最もバクテリヤのいつやすいものは、充分煮た上に燒いてなるべく水氣を少くしておく事、冷藏庫などあれば之に越した事はありませんけれど、之は普通の家では一寸むつかしい事です、永く保たせやうとするには罐詰にするがよろしい。罐詰は中の空氣を拔いてありますからバクテリヤは殖える事が出來ません。之から罐詰物の多く使はれる時ですから、一寸その見わけ方をお話して置きませう。罐詰は兩方の底の凹んでゐるのがよろしい、もしふくれてゐるのがあつたら、それは中にバクテリヤが出來てその瓦斯が生じたのでありますから要心しなければなりません。ピン詰もにごつてゐたり沈澱のあるのは已にバクテリヤが出來た證據であります、鹽と酢はバクテリヤが殖える事の出來ないものですから、腐る心配のあるものはなるべく鹽をからくして置くか又酢につけるのがよろしい、夏に酢の物をつくるはさつぱりしてゐて氣持ちがいゝばかりでなく斯樣した有益な事情があるからであります。從つて梅干は結構なものです。辨當の御飯の中に梅干を一つ入れて置くと大方は御飯が變りません、お鉢の中などにも數個入れて置くがよろしうございます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

歴史講話

操を守つて死せし鹽谷高貞の妻
立てゝ尼僧になたつ辨の内侍

初瀬せん子

芝居でする忠臣藏の高の師直と云ふお老爺さんは憎くらしい腹の立つ狸老爺ですが、それは芝居の話眞實の師直は南北朝時代の人であの大忠臣で名高い楠正成公の敵、足利尊氏の家來でございます。眞實の師直は芝居の師直より猶ひどい色魔で、師直の爲めにあたら色香を散らされた婦人はどの位あつたかわかりませぬ。

忠臣藏の鹽谷判官の妻顏世御前は眞實も矢張鹽谷高貞の妻で、芝居のやうに矢張高師直に見初められ歌やら艶書やらを贈られましたが、矢張芝居でするやうに、手ひどく師直をはねつけました。すると芝居では師直が判官をいじめ、其爲めに判官は勘忍袋の緒を切つて師直を切りつけ、又其爲めにお家は改易身は切腹赤穗浪士はちりぢりばら／＼、とう／＼お仕舞いに大星由良之助初め四十七士の仇討となるのでございますが、眞實は師直は鹽谷高貞の妻から辱しめられたもの故、高貞がゐては邪魔になる。高貞を殺して其妻を奪ひとらうとしたのでございますさあ戰爭となりますと悲しい事には師直の方がずつと強い、逃げる後から追ひかけられて、夫とはわかれわかれに、高貞の妻はとう／＼播摩の國は影山の里で大勢の軍勢に追ひつかれ、降參して師直の心に從ふか、但し潔く殺されやうかと云ふ立場になつたのでございます。所が流石は武人の妻。どこ迄も貞

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

操を全うして、自分の手で自分が死んで仕舞つたのでございます。

其頃右小辨藤原俊基の娘で辨の内侍と呼ぶ其頃に稀な美人がございました。後村上天皇に宮仕してゐましたが例の高の師直、内侍の美貌を聞き知つて、嘘を云つておびき出し、家來に命じて途中で奪ひとつて仕舞ひました。内侍や其お家來達があれ〳〵と泣き叫ぶのを耳にも入れず、情用捨も荒くれ男が今や内侍を駕籠に打乗せ運び去らうとしました時丁度通りかゝりましたは楠正成公の子、楠正行でございます。婦人の泣聲にたゞ事ならずと驅けつけて見れば右の仕末。何ぞ默つて見てゐられませう、荒くれ男を追ひ散らし内侍を助けて皇居に送り返しました

帝は正行の功を賞されまして、内侍を正行に賜はると云ふ有難き宣旨が下りました。けれども正行は武士の身、しかも其時近い中に戰死すると固く覺悟を定めてゐましたので、

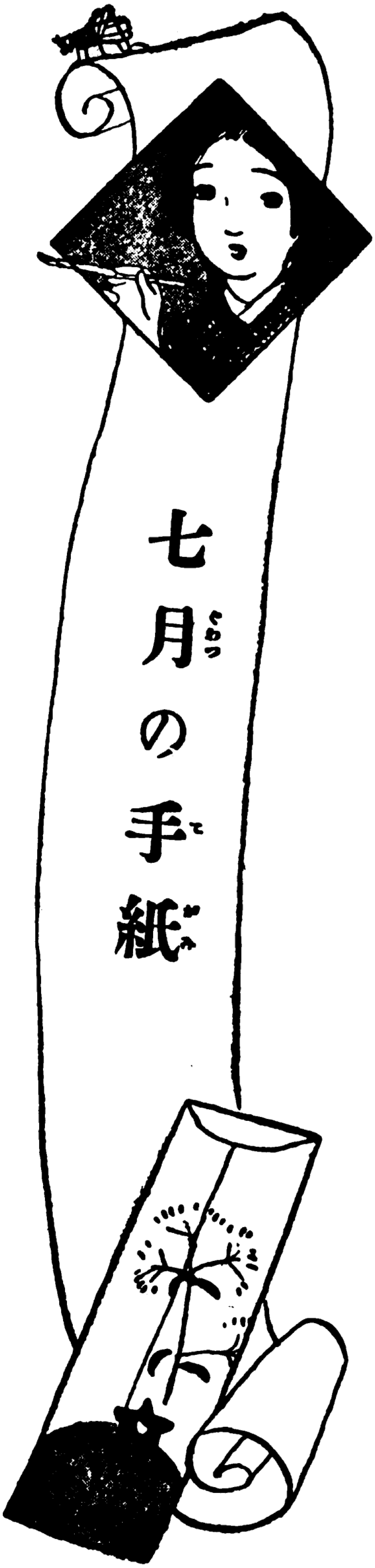
とても世にながらふべくもあらぬ身の
かりの契りを如何でむすばん

と詠み、此有難い宣旨を辭し奉つたのであります。そして間もなく河内の國は四條畷で、正平三年正月五百人の尠い兵で八萬人の賊の大軍と戰ひ、之れをさん〴〵な目に逢はしましたが、多勢に無勢、とうとう兼て覺悟してゐた通り快く打死して仕舞ひました。其事が辨の内侍の耳に入りますと、未だ眞實に夫婦と定つたのでもないのに、其人の爲め黒髪をぷつすりと剪り捨てゝ、大和の國は龍門の里に、一生正行の後世を弔つて世を終りました。

あゝ、夫ならぬ夫に操を立てゝ、あたら花の盛を尼になつた辨の内侍と、何所迄も操を立てゝ儚く自殺した鹽谷高貞の妻と、いづれも女のかゞみではありますまいか。

今は昔と變つてゐても、女の操に二ツは無い。操を立てる人には何所迄も操を立て、又操を破れやうとする時には命を無くして迄も其操を守らねばなりますまい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



七月の手紙

ゆき子

とし子様

お暑くなりましたわね。お變りもなくつて。おたし無事。此頃は身體もそれから心もぴんぴんしてゐますわ、其ぴんぴんしてゐる心で一生懸命貴女の事を思つてゐるのよ。ほんとにいつお逢ひ申したきりでせう。さうさう春のお花見の時、あなたの會社のお方々と私の工場の人々が飛鳥山で落ち合つて、ちよつとほら櫻の花のはら〳〵と散る木の下でお話ししましたけれども、外にお友達も大勢お出でになつたし、心が落着かなかつたもの故、しみ〳〵お話も出來ませんでしたわねえ、それからずつと——御無沙汰して、氣がついて見るともう夏。ほんとに早いものねえ。

昨日の公休日に淺草へ行きましたら、もう七月だと云ふのに螢を賣つてゐましたのよ、もう螢もゐなくなる時節なのに、其生き殘つてゐる螢を賣つてゐる人があまり綺麗で無い着物を着た、斯樣云ふては何だけれども、矢張螢みたいに淋しく生き殘つてゐるとも思はれるお婆さんなのでした。あまり可哀相でしたから、つい螢を買つてあげて、歸つてから其螢を蚊帳の中に入れ、寢ながらそれをじつと見てゐますと、お國にゐた時分の事が思ひ出されましてね

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

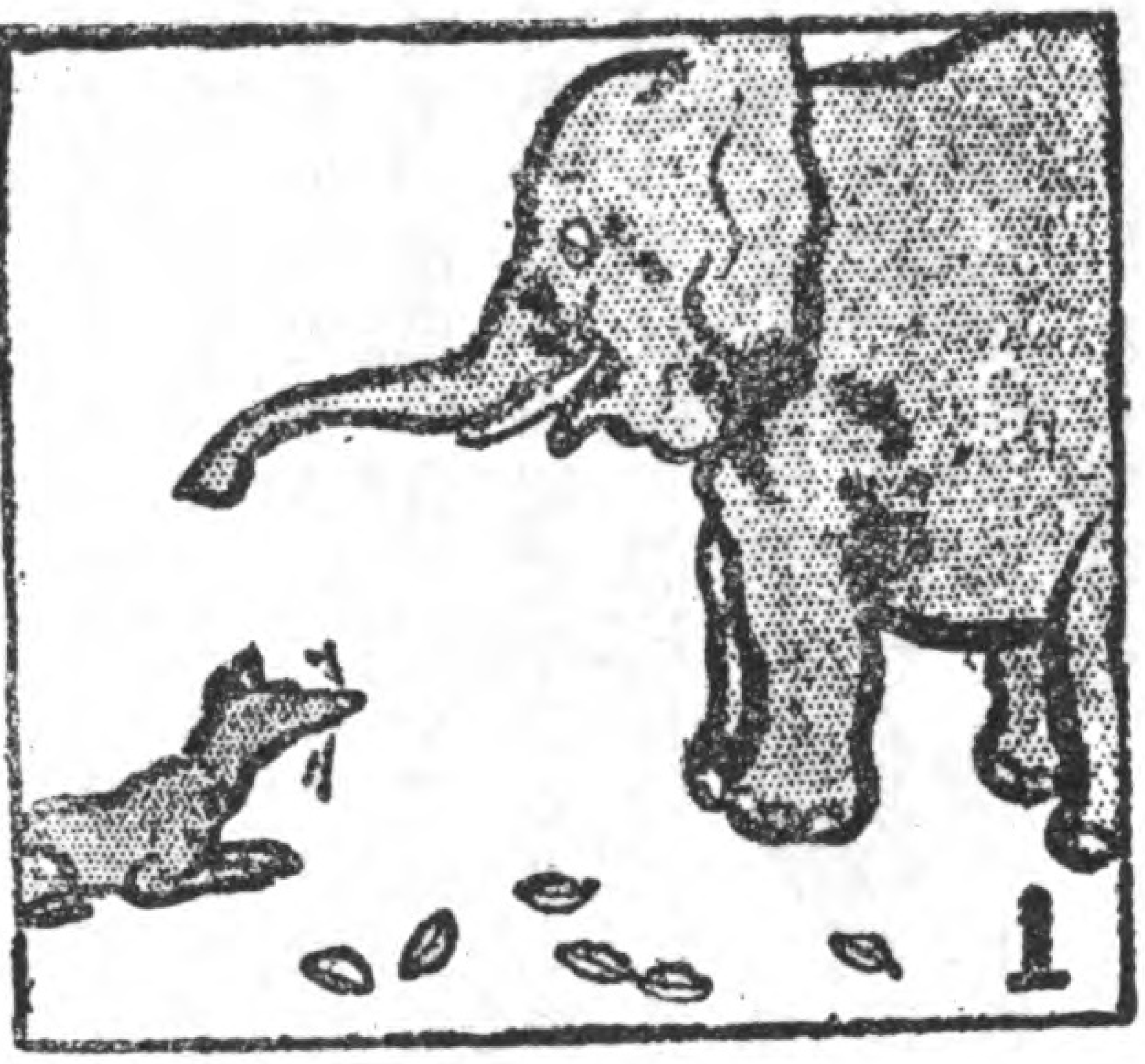
ほら、鎭守様の夜宮にあなたと私とそれから未だ四五人、さうさう、此間お嫁に行つたつておそめさんも混つてゐましたわ、其時に私が危く河へ落ちやとして、あなたがあまり大きい聲をお出しになつたものだから、みんなが吃驚して、ねえ、未だ覺えてゐらつしやるでせう。螢がまあ空のお星様のやうに光つてゐてね。私等はあの翌年東京へ來たんですわねえ。蚊帳の中の螢を凝乎と見てゐますと、そんな事が思はれて、急にもう貴女が戀しくなつて堪まりませんでした。ねえ後生ですから、近い中にお遊びにお出でにならないこと。會社へ入つてからのお友達はたくさんあるけれども、同じい村のお友達は此廣い東京にあなた一人きりなんですもの、ねえ、是非是非お出で下さい。今晩は國にゐるやうな靜かな晩です、電車の音が遠くで聞えてゐるのよ、あの電車であなたがお出で下さるなら眞實に嬉しいんですけれど。ではね、部屋長の吉田さんにもあなたの事をお話しましたら是非逢ひたいつて被仰つてゐらつしやつたし、未だいろ〳〵の人にお紹介してよ、だからね是非是非怎麼ぞお出で下さい。其時いろ〳〵の事を話しませうねえ。

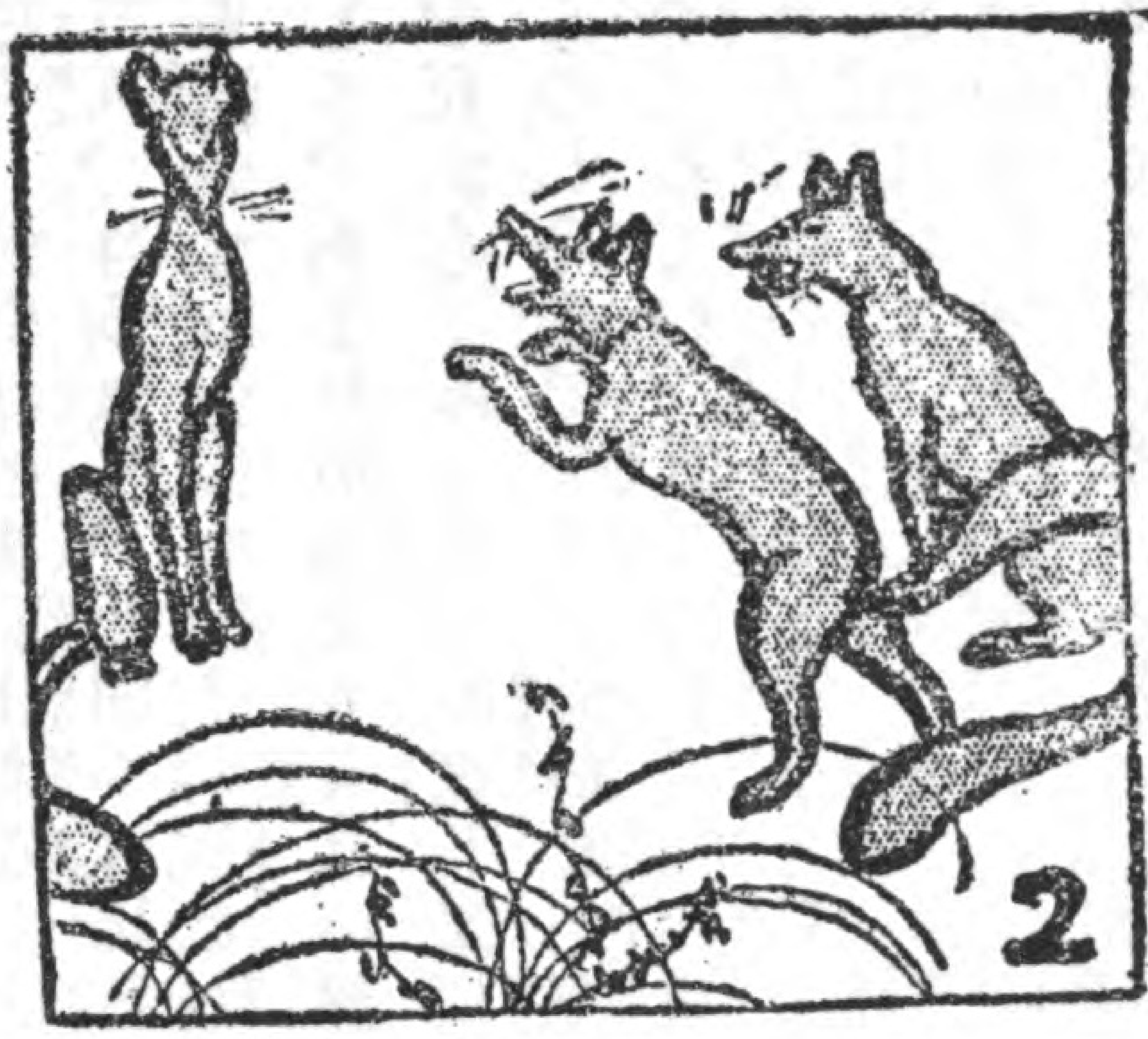
＊＊＊とし子より

お懷しき
ゆき子様

眞實に嬉しうございましたわ、お手紙を戴きましてね、直ぐにお伺ひいたしますつて申上げたいのですけれど、丁度今夜勤なので、全く殘念で殘念で堪まりませんのよ。四日程經つと交替ですけれど其日の公休日か其次の晩あたりお伺ひしても差つかへありませんかしら、何卒お返事下さりませ、眞實に逢ひたいわねえ。私の部屋の窓はあなたの會社の方を向いてゐるのよ、私今ね、あなたの會社の方を向いて早く逢ひたいわと云つたのよ、聞えましたかしら、寄宿の庭に紫陽花の花が一面に咲いてゐるのよ。あの花の色の變る頃には逢へるのねえ、早くぴん〳〵してゐるお顔が見たいわ、お身體大切にしてね、いつ迄もぴん〳〵してゐるやうにね、私もお手紙貰つてから、急に氣がのんびりとしましたわぉ、、、、乾度あなたに似たのよ、ではお逢ひ申した時に、左様なら。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA





オトギバナシ

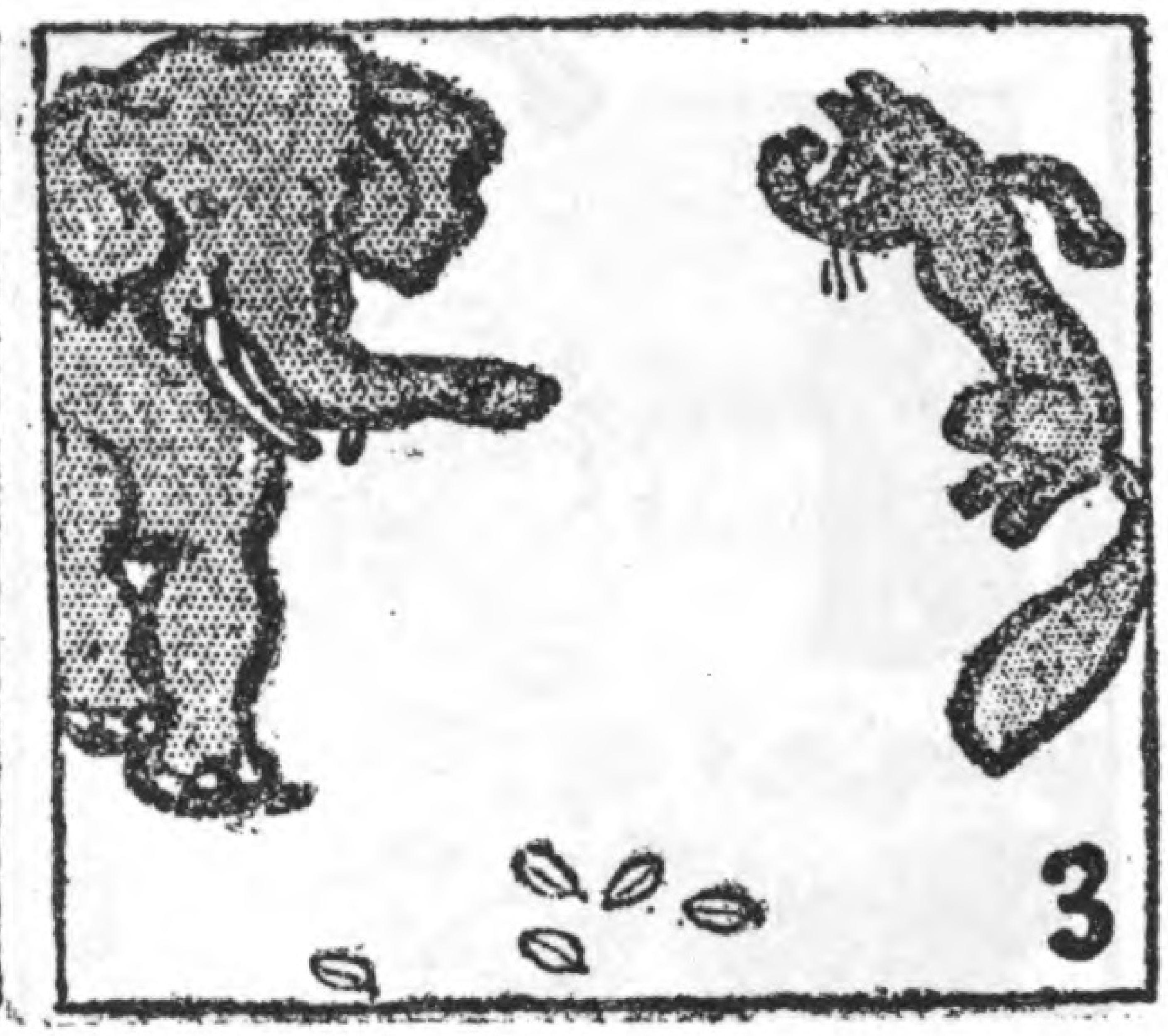
一

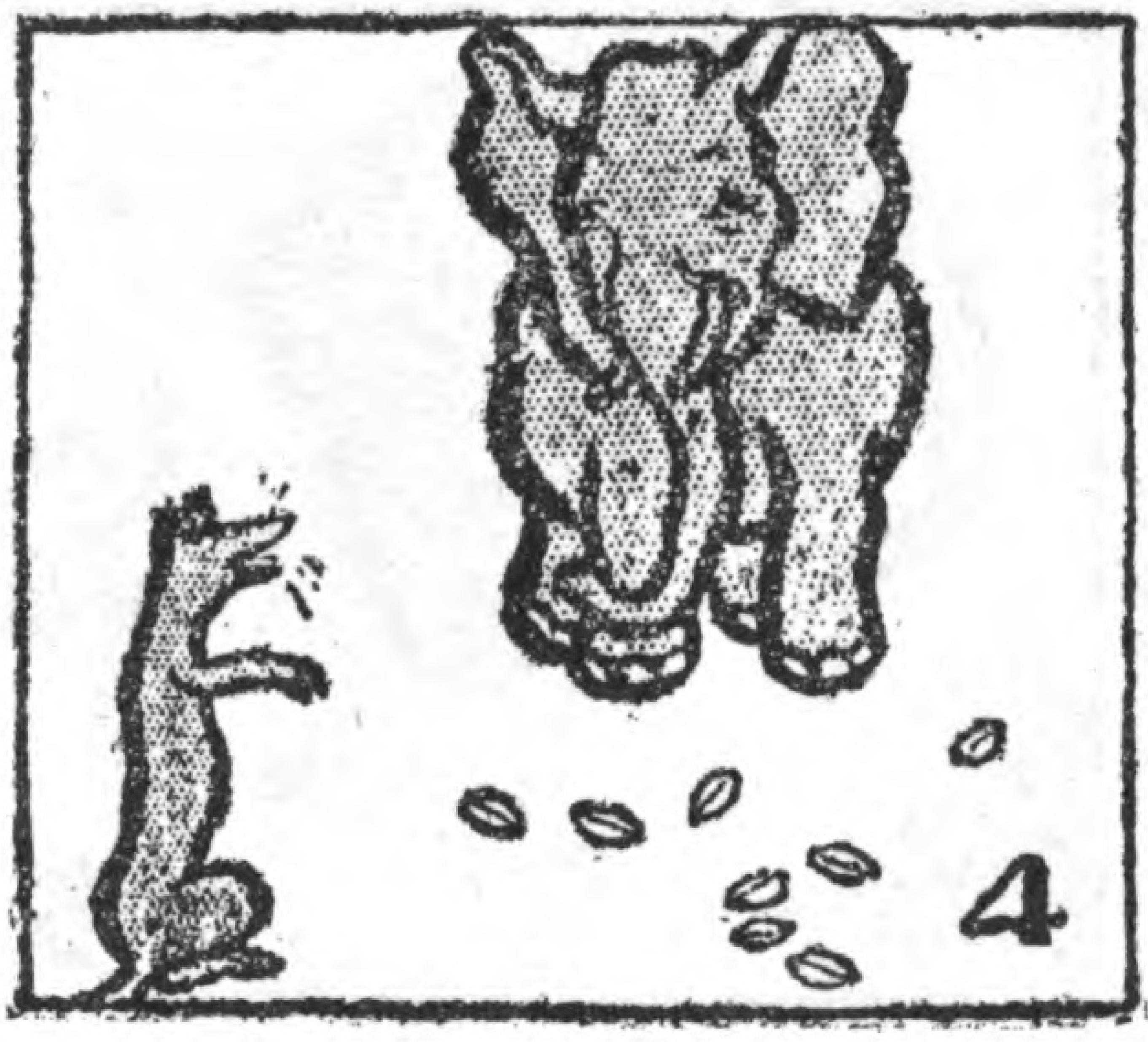
むかしむかし森に狐が棲んでゐました、ある日の事、餌を捜しにそこらをうろうろしてゐますと、一匹の象に出會ひました、象は大きな圖體をしてのそのそ歩いてゐますので、狐は摺れ違ひ樣に叮嚀にお辭儀をして『これは〳〵お遊びでございますか』といふと象は大きな鼻をふつて『うむ』と一言返事をしました。

二

狐は急いで自分の仲間のゐる所へ驅けて歸りました、そして息をはずませながら『おい皆の衆、今そこで象に出會つたよ、どうも象といふ奴は素晴らしく大きな圖體をしてゐるね、あんな奴を殺す事が出來たら私らが寄つて集つて食べた所で五十日位は食物に不自由しなくともよからう、誰か巧くやつて呉れる者は無からうか、彼奴圖體は大きいが案外馬鹿かも知れない』と言ひました、皆は默つて顏を見合せました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA





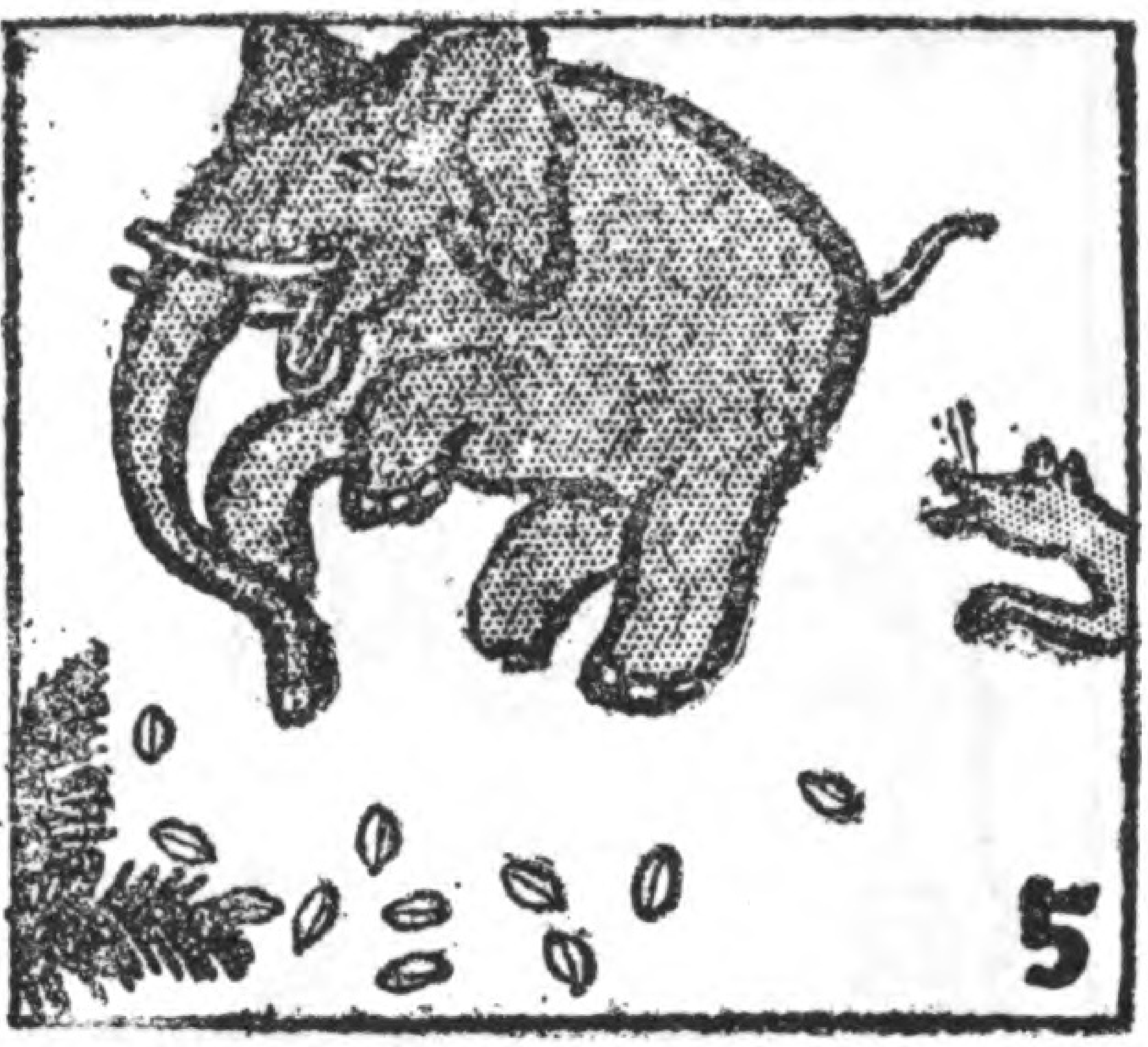
三

そのなかに背の毛の禿げた一匹の古狐がゐました、今の話を聞くと一膝前へ乗り出して『それは善い所へ氣が注いた、早速私が一つ出掛けて往つて、その象めを係蹄に掛けてやらう、背は禿げちよろけだが智慧と來たら森一番の古狐樣だ、細工は流々仕上げを御覽じろ』と高言を吐いて、それから小走りに象のゐる方角へ出掛けて往きました、象はその折樫の木のかげで伸びかゝつた若葉を美味さうにぼり〳〵食べてゐました。

四

古狐は象を見ると『へいへい貴方樣は象樣でいらつしやいますか、これは良い所でお目に懸りました實は私共で仲間の喧嘩口論の無いやうに今度獸の王樣を取定めたいと思ひました。色々相談を致しました所が皆の者が夫は象樣に限るお鼻の長さと言ひ、お尻の大きさと言ひ王樣として申分の無い方だ貴方樣に御異存さへ無かつたら一つ其お積に願ひ度いと申しますので憖うして私がお願ひに上りましたやうな次第で』と言出しました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



五

象は夫を聞くと急に嬉しくなつて大きな鼻をぴくぴくさせながら『うむ別に異存は無いが王様といふと五月蠅くての』と言ひますので狐は可笑しさをじつと食ひ堪へて『それでは今日から王様になつて戴きます、夫についてお身體が汚れていらつしやるやうだから一度お洗ひ申しませう、何卒此方へ御越し下さい』と先きに立つて森を出ました、象はのそのそ後からついて往きました、森の外は一面の沼で腐れた木の葉が其邊らぢうに落ちてゐました。

六

古狐は平素と同じやうな足つきをしてその木の葉の上を渡つて往きます象はあとから一足その上へ足を掛けるといきなり沼のなかへ吸ひ取られて『アッ』といふ間に大きな身體は横さまに倒れかゝりました、何しろ沼の中だから何うする事も出來ません『おい〳〵助けてくれ』といふと狐は尻り尾をちよこなんと立てゝ『これに捉まりなさい』と言つて白い齒を露いて笑つてゐます、その内象は死にました、狐は寄つて集つて夫を食べてしまひましたとサ。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

武蔵野の夏

秋野基一郎

草わけてやさしき響にころ〳〵と水の流るゝ武蔵野の原

春は花夏は青葉の武蔵野は人も住むなり神もいまさむ

初夏のあかのみどりの夕風は麥刈る人をしづかに吹きぬ

武蔵野の野中を行けば草の色と畑に働く人の香とあり

神無月のべの小さき木葉をつけて自然をほこる夏とこそ知れ

大木も小草も人も萱屋根もなべて武蔵の風情なるらむ

親もなく愛する人もなき者も野原に行けば心さやかなり

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

川崎行

稲葉あい子

梢の花は地に落ちて、緑の葉蔭に若い果實が見へがくれする、五月二十日、川崎支部を、お訪れ致しました。風通しのよい二階で、婦人委員數名と樂しく話し合ふ。雜誌の編輯に對しての注文や、茶話會を催す事などに就て、種々と御相談下さいました。皆様はいづれも御熱心な、そうしてよくわかつた方々ばかり、それなのに今迄一度も、茶話會をいたさなかつたといふのは、誠にお氣の毒に思ひました。一緒に御出下すつた、本所支部の菊地はつ子様に、「本所の方々はほんとに幸福ね」など申される方もありました、これから各支部の講話會や茶話會のある時仕事の方がお休みでどもありましたならお互ひに行つて有益なお話を聞きなど致し、親しみを増す様につとめ友愛式を益々發揮いたしませうなどゝお話しされて居りました、そういふ事は實によろしい事だと思ひます。一同一つのお膳を圍んで、御馳走に舌皷打ち、午後二時頃皆様のおすゝめによつて鶴見花月園に行く事にいたしました。

　藤、牡丹、芍藥……逝く春の名殘りを彩る花の姿はなほ色艶かながら、世は深く青葉の蔭に包まれて初袷の袂もかろく、氣もかろく、野路行く皆さんの袖から小褄から、涼しい清新の氣が搖れて流れる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

坂道を登つたり下つたり、木々の間を縫ふて、やう〳〵花月園に着く、園内は仲々廣く、小高い丘や、小さな川や又は瀧や池もあるし、誠によい場所である、こうした所へ公休日毎に遊びに來られる、川崎の會員は實に幸福だと、羨しく思ひました。

娯樂や、運動の設備もなか〳〵行き届いて居るし、家族打ち揃ふての、遊び場所としては誠に結構な所であります恰度日曜日でありましたから非常な人出、老人も子供も樂しそうに遊んで居る。

私達は、そうした人のどよめきから逃れて、海に面した、小高い丘に登り其所で一休みしながら種々とお話いたしました。

淼々とした海原を眺め、寄せては返へす磯打つ浪の音を聞き、或は青葉の下を緩う流るゝ川水の歌や、梢に囀づる小鳥の平和な聲などに耳傾け、仰いでは空行く雲に思ひを馳せ、美しい自然の懐に抱かれて、時の移るも知りませんでした。花壇に舞ふ胡蝶の、徂く春を追ふて忙しげなる、夢を知らで花に憧憬るゝかと、いと哀れに覺えました。

伊藤樣と平田樣とは御親切に彼方此方と御案内下さる。赤い夕陽がだん〳〵海に近くなつて來たので川崎に歸り、一同記念の寫眞を撮り、支部に立ち寄つてお茶に咽をうるほしながらお話致し皆樣とお別れしたのは午後六時頃でありました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

（けなげなる姿なるかな）

（親子揃つて會の役員）

上圖は富士瓦斯紡績會社東京押上工塲の工女さまがたのお姿、右圖は友愛會本部員菊地さんと二人の娘樣。いづれも友愛會の熱心な會員であります。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

初夏と女の犯罪

某刑事談

男女間の問題

新緑の燃え立つ頃は、婦人が樣々の方面に弱點を露はして來る女の犯罪も從つて多く、女にとつては誠に厭はしい期節なのであります。

男との關係、若い女には之が頗る多い、自然の力は今迄枯れて居たやうな樹にも花を咲かせ葉を繁らせる、人の胸も、今迄は理智の力で冷靜であつたものが、其頃の季節にまると、大分感情的になりヒステリー的の女などは事々に感じ早く、そして心を痛める事が多い。男の方から見ると初夏の女の姿は一年中で一番美しく見えるのである、寒からず暑からずで血色もよい、そして着物を着た具合が厚着でもなく又 眞夏のやうに單衣一樣でやせた體や肥つた體が露骨にわかるやうな事もなく、誠に程よくしなやかに見える。そして寒い時とちがつて男女顏を合せる時が多いので、心の弱い者はいつしか誘惑に陷つて仕舞ふのです。女は充分心をしつかりさせねばなりませんが、又一方で、身のまはりをあまりけばけばしくする事は避けなけれ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ばなりません。けばけばしい様子が男子の氣を引くばかりではありません。惡い事をするやうな男は、けばけばしい様子をする女の心の確りしてゐない處を直ぐ見拔いて仕舞ふのですから。あの女の心に隙があるなと見られたらもうお仕舞ひです。彼等は色色な方面から攻め落しにかゝつて來ます。攻められぬ前の用心が何よりです。

□万引が多く出る

之に多いのは盜みであります。

盜みと申しても日本の女は、西洋の活動寫眞にあらはれるやうな、そんな大膽不敵な事はしません。ほんのちよいとした手先の盜みである、盜むもの丶多い少いの差はあつても、盜むといふ心は同じである。罪は同じであります。春から夏にかけて着物が派手になるのはいつもの例である。衣更といふ事や、派手な着物を着るといふ事は、女の心にはどれ程大きい事として響くかわかりません。冬などは、あの人は五圓の着物を着てゐる、私も同じ五圓の着物である、とさう思ふ位で濟んだものが、今頃の季節になると少し位安くてもよいから、ぱつと人の目にたつものが欲しいといふ風になつて來てゐる、之は季節の自然の關係で致し方もない事ですが、其處からかなしい犯罪が起つて來るのであります。自分も美しい着物を着たいけれども金が無い、呉服屋などに行つて見ると實に美しい布が、之をとれよかしといつたやうな風に並べてある、惡い事とは知りながら、ちよいとかすめて仕舞ふ。又實際盜む氣はなくても、日頃欲しい〱と思つてゐると、心のしまりのない人は、善惡を考へてゐる暇もなく、ふら〱と盜みの心が起つて來て小布を袂に入れたりする、盜んだものを見るとほんの十錢二十錢のもの、この位のものなら、いつでも買ひる金をもつてゐながらする人がある、之は一にその人の教養

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のない、自分を制へる力の足りない處から來て居るのであるが、日頃はそんな事を仕さうもない人がする事があります。その人達を調べて見ると、月經中又は月經前後であつたといふのが多い、この時は女の精

無邪氣なこども

神に一種の變化を起し、非常に感情的になつて來る盜みばかりでなく、女の犯罪は、この月經中又はその前後に行はれたのが多いのです。昨年逗子で神近市子と云ふ女が男を斬つた、隨分教育のあるしつかりした女といはれてゐた人であつたがあんな事を仕出かした。その時市子は丁度月經中であつたさうです。後悔は先に立たず、斯樣な事は日頃充分によく考へて、自分で自分を教育するが何よりであらうと思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

勞働社會の婦人に就て

兒童學會長　服部北溟

□□女の飲酒家が多い

勞働者といふと、世間の人の中には、ぐでん〳〵に醉ばらつて、怒鳴つたりくだを卷く人を思ひ出す。勞働者といふ者は、宵越しの金はもたぬ人達と思つてゐるのが多いやうであります。その日の賃金が殘らぬといふのは、收入が少い場合には仕方のない事、當然の事であつて、さういふ譯で宵越しの金が持てずに居る人もありませうが、よく調べて見ると酒などの一時の快樂をむさぼる爲に金を費し、その爲に金を貯へられずに居る人が隨分あるやうに思はれます。どの位飲んで居るかといふと、或特殊學校の子供の父母を標準として調べた處が、次のやうな割合を見た、尤も之は毎日の飲量ではなく、醉ばらはないまでの程度です。一番澤山飲むものが父が三合、母が五勺、少いのが父が五勺、母が五勺、極量の方を見ると一番多いのが父が二升、母が五合、少いのが父が五合、母が二合となつてゐます。家々には父母ばかりでなく、その他にも飲む人がありませう。こゝに注意しなければならないのはこの社會では女の酒のみが多いといふ事であります。父親が酒をのむだけでも、その家庭

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に及ぼす影響、殊に子供たちの爲にはどれ程悪いか知れないところへ、母迄が飲むといふに至つては、實にどれ程の不幸であるかわかりません。

■正しからぬ結婚法

それから、又、最も注意しなければならぬ事があります。それは婚姻上の問題であります。この社會の間に行はれてゐる結婚の有様を見ると失禮ながら、社會問題としても、風敎問題としても、すて、置く事の出來ない惡風があるのであります。

どんな風に結婚は行はれて居るか、自分は嫁きたくないのだが、家が貧乏で一人でも口を少くしなければならぬといふのや、先方は此方よりいくらか金がある、嫁いたら此方に何か益があるであらうといふ慾張りから、いや／＼ながら、嫁にやられるのもある、で

むつましき農家の老夫婦

すから、この種の結婚をした者を見るとお嫁さんが十六七才で、お婿さんが好い加減なお爺さんといふやうなのがあります。又、親も許さず、實際その人が出ては困るといふ家の事情がありながら、自分の勝手で結婚するのがある。それも正式に結婚するのでなく、女が男の家に行つて同棲するか、男の方から女の家に行つて一所に暮すかといふ風です、その内に子供が生れる、之が私生兒といふ、あはれな名をつけられるのであります。

■すぐ男と關係する

以上申のべました事は娘ばかりではない、夫に別れた寡婦にも之に劣らぬ嘆かはしい結婚をするものがあ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るのです。夫に別れてまだ涙の乾かない内に他の男と關係して一所になる、その男に飽くと又次の男をさがす、それでも思ふやうにならぬと幾人でも次々に男を取替へて行きます。こんな女の中には自分の弟位な人と夫婦になり、自分の連子をして、その男を兄さんなど〻呼ばせてゐるのがあります幾人か男を取替へてゐる内に姙娠する、さア誰の子かわからない、生れた子にとつて、誰が父かわからぬといふのはどんなに、かなしい事でせう。

□□私生兒が多い

前に申ましたやうなわけで、父母が正式に夫婦になつたのが少いので、生れた子供には私生兒が頗る多い、それから子供の眞個の年齢と戸籍の上の年齢と大分ちがつてゐるのが大分ある、中には全く籍の無い子もあります。戸籍には嫡出子となつては居るが、それも最初は私生兒で、後に父母が正式結婚の手續をなし、それからその私生兒を嫡出子に直したのが多いのです。又、眞個は私生兒であつて、親子關係の者でありながら弟や妹、又は甥や姪にして居るのがある、實に入り亂れたものであります。

□□間食の惡風

それから私はこの社會に間食の多いといふ事についてお話を仕たい、之は一面から見れば、三度三度の御飯が少いからその埋合せにするのだとも思はれませうが、實際はさうではないやうです。これは經濟上まことに馬鹿げた事であるのみならず、子供の胃腸の爲によろしくない、斷然止めさせなければならぬ、然しこの惡風は毎日家庭で、大人の間にも繰返されてゐる、その中にそだつ子供だけをどうして止めさせる事が出來ませうか。又、子供がこの惡風に染まつた結果、遂には思はぬ惡事を働くやうになるのであります。

▲懸賞　はめ字▼

次の○の所へ字を嵌めて立派な文章にして下さい。

(一)一生懸命○くのは○の爲め會○の爲めですが、又自分の爲めです。

(2)今○のお月樣はまあ神々しいこと、出來る事ならば亡くなつたお父樣と、お國にゐる兄さんやお母さんと、みんなで此お○樣を○めたいわ。

(三)友愛○人が又元のやうになつて私眞實に○しいと○ひます

▲懸賞　謎々▼

次のなぞ〳〵をといて其答と、心を書き送つて下さい。

(一)友愛婦人とかけて…………

(二)犬の遠吠とかけて…………

(三)盆踊とかけて…………

＊　＊　＊　＊　＊

◎注意

一、答はハガキ住所姓名をハッキリ書く事

懸賞はめ字も懸賞なぞ〳〵も共に、

二、締切は七月十日

三、正解者には、十名宛に本をあげます

正解者澤山の時はくじびき。

四、宛名は東京三田四國町友愛會婦人部

▲前號判じ繪答▼

一　なでしこ

二、ひるがほ

三、ふぢの花

正解者二百五名の内くじに當つた方

本所　中村　スイ　　千駄ケ谷　能一ゆき子

神奈川　土居ふじ子　　横濱　高下　光子

玉子　大野ふく子　　大阪　石野シヅ子

大阪　細川マツエ　　押上　岡崎チヨノ

吾嬬　飯田　イト　　大森　三浦　清

以上十名

日清紡績會社を退社された阿部トクエ様御住所お知らせ下さい賞品を送ります。

＊　＊　＊　＊　＊

▲友愛會婦人部消息

左の方々は新たに會員になられました。

□吾嬬支部（二十一名）

山本　モヤ　　瀧澤　マス　　片野　ミヨ

高野　キク　　高橋　トキ　　白坂　トク

船田　ユヲ　　阿部トキエ　　大竹　ヨシ

高橋シゲヨ　　越前タニエ　　須田ヨシエ

結城　ヤイ　　佐藤　ヨシ　　遠藤　トメ

木滑　キク　　國分　タツ　　渡邊　マス

越井　エイ　　秋元　ルイ　　大口　ジウ

□川崎支部（十二名）

小川　トシ　　瀬山　リン　　粂川　ナツ

齋藤　ツナ　　押田　千代　　石井　フサ

小澤タカノ　　池上　ウメ　　大塚　イツ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

松本タニエ　後藤トミ　鳥居キミ

□綴支部（八名）

矢澤ミドリ　木材トラ　齋藤マツエ

眞弓イシ　柿沼フミ　木田トヨ

高木セン　鈴木テノ

□大阪西支部（九名）

藤田トヨ　寺西ワサ　今野トクエ

齋藤キタ　奥村フサ　岡本キヌ

中川ウメ　篠原トメ　田村ウタ

□京北支部

門原つる　近藤たつ　白土あき

宮田はる　伊藤みち　土屋すゑ

中　川

□本所支部

高城マス　相原タク　横山サキ

阿部スエノ　金井シツ

□荏原支部

雨宮マツノ　井出ヒロ　加藤サトミ

長谷川ツネ

□葺合支部

佐藤つる　中野いと　澤井すゑ

岡まつ

□常盤支部

永野マン　小野ヒフミ　碇谷イク

坂川ツタ

□磐城支部

山部シズ　橋本チヨノ　志賀イチ

高木セイ

□松原支部

永野まん　小野ヒフミ

□大島支部

寺島ヒサ　堀江フク

◎十一日の午後、本所支部内東京モスリン工場會員の方々は押上倶樂部で例の如く茶話會をなさいました。集まる諸姉八十名程、お茶を飲んだりお菓子を食べたりお話をしたり笑つたり、それはそれは賑かでございました。御演說なさつた方もありましたし、餘興をなさつた方もありました。本部からも婦人部係は總出でお話やら、講談やらを申上げました。

第一回婦人部大會

お待兼の婦人部大會をいよ〳〵開きます。

時日。七月十一日正午より（晴雨とも）

會場。東京本所區業平館

講演。會長初め諸名家

餘興。三曲合奏、講談、義太夫

其他いろ〳〵

確定次第御通知いたしますゆえおさしつかえの無い方はお誘ひ合せ賑々はしくお出で下さい。

第一回婦人部大會

* * * * * * * * * *

友愛文藝

短文

蠅

王子支部　横尾ひさ子

私は午後の休憩時間に讀みさしの友愛婦人を繙いて親愛なる皆様の美しい文章を讀んで居りましたするとトン／＼と輕く物に當る音が聞えた。見ると一匹の蠅が屋外の光明を目あてに進まんとして居るのです。

彼れは、屋外の光明にのみ憧れて其前に横たはる障礙のガラスに心付かず、勞れては休み、休みては當つて見た、然し自分の望みも達せず終に倒れて下に落ちてしまいました、私は、此の蠅を見た時に感じました、それは、人間の運命のあるものも或はこんなものではないかと……

皆様へ

本所押上　金井ツイ子

涼しい初夏の風が、さはやかな綠の葉を傳はつて心地よく吹いて來ます雲なきみ空には銀のおぼんの様な月が下界をてらして居ります、今私はその神秘な光りに浴し乍ら南窓に寄つて友愛會の雜誌を讀んで居ります、おなつかしい皆様方の力強いお言葉美しい文章など拜見致しました賢明な先生方が私共の爲に御働き下さいまして種々有益な記事をお書き下さるし又西と東に離れて働いて居る皆様と誌上でお話し致す事も出來誠に幸福で御座います、私は本所の片隅に住みかよはひ腕に全身の力をこ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

めふ日々勞働生活を致して居る者で御座います何卒新しい文明の光り輝く方へ御導き下さいませ。

初夏

品川　山田幸子

花のたよりを嬉しと思ふたのもつい昨日の樣に思はるに隙行く駒の足早く軒端に巣くふツバメの羽風に初夏を語つて居る。昨夜から降り出した雨もからりと晴れ庭の青葉には玉の樣な露が宿つてキラ〳〵光つて居る、窓際の紫陽花とひあをいとが調和よく咲き匂ふて時々可愛い蝶が花を訪れ甘い香に醉ふて靜に眠ります蝶は花のしとねにどんな夢を見て居るのでせうなど思ふて居ると蝶は思ひ出した樣に他の花に飛びました。

大掃除

吾嬬　たね子

疊をたゝく音がかまびすしく聞へるせまい路次を屑屋が五月蠅ほど通る、私も母樣と一緒にせつせと働きました。やうやく片付いたのは午後の二時最後に佛壇の抽斗を片付けやうと思ふて、椽側に出して中の物を出して不用の物だけ取り除いて居るとふと厚い紙に手が當つた取りあげて見るとそれは昨年工場の機械で傷受けてそれが原因で餘病をおこしとう〳〵秋の暮れあの世の人となつた姉さんの寫眞でありましたあゝ姉さんの靈魂は今何處に？安らかに眠つて居るだらうかそれとも何者かを恨らんで？

新體詩

共稼

王子支部横尾ひさ子

朝早く星を頂いて床を出で
　妾は勝手に食事を調ふ
夫は家の内外を淸むるに多忙
　相語りて食事を共にし
食事終り作業服に身を固め
　留守を隣人に託して
夫婦手を取りて工場に向ふ
　一日の作業無事に終りて
夕べ亦相たづさへて歸り
　夕飯亦樂しみて食す
相語りて一睡夢に過ぎ
　幸福は只二人の天下
是れ眞に勞働の賜物
　是れ實に意義ある生活
相嬉びて天に謝す

和歌

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○ 大阪 白百合

われ泣けば巨人の如き工場の
　煙突もなげき五月雨るゝ
生きんため其日〳〵の日課とし
　機械を友とし働きてあり

○ 三重 とめよ

夢さめて母がかひなと思ひしは
　冷くなりし枕なりけり
母戀ひて故郷の空眺むれば
　あなたの雁ぞ鳴き渡り行く

○ 本所 共泣女

わが友は作業の中にあやまりて
　四つの指をば機械に奪ひ取られぬ
友は泣く指無き左手眺めつゝ
　不具となりにし身をばかこちて

○ 龜井戸 君江

病室の友おとづればすや〳〵と
　眠りたまへるそのやつれしみかほ
たらちねの君を離れて異郷の空
　病む事のいかに悲しきかなや

○ 本郷 なでしこ

かぞふればみとせとなりぬ鎌倉の
　住まひし事もゆめとなりけり
朝夕につとむる業はつらけれど
　亦たのしみのあるぞ嬉しき

○ 深川 長田わき

みいくさの彼地におはす我夫に
　文かくなかばほとゝぎすなく

米子地方の子守歌

いやじやおかあさん
子守子はいやじや
親にやしかられ
子にせめられて
父はあづまに
子は不知火に
櫻花かや
ちり〳〵に
雨はしよぼ〳〵
洗濯物はぬれる
せなの子は泣く
日はくれる

○ 正立支部 中山 幸平

しばしとて川邊の柳眺むれば
　水もたらしてそよ風ぞふく

○ 保土谷 忘日草

よもすがら働きたりし我頬の
　痛ましきまでやつれたるかな

○ 北海道 農夫の妻

彼方なる丘の畑地に脊の君の
　土に親しむ夏となりけり

○ 深川 一讀者

小說を讀みてわが身と引きくらべ
　小雨ふる夜を泣き明しけり

○ 押上 白菊女

茶話會の樂しかりしを忘れ得ず
　友と語りぬ食堂の片隅に

○ 大阪 花江

父痛むと知りて轟く胸の中
　遠き旅路の身やいかにめん

○ 鐘淵 濱子

ゆら〳〵と風に動ける糸柳
　寄宿の窓に友と眺むる
如何なればかくも亂るゝ心ぞや
　風よ吹け〳〵柳ちれ〳〵

俳句

○ 品川 山田 幸子

青簾いさゝか貧をかざりけり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

日課了へて衣縫上ぐる日永哉
蝶の野は暮れて蛙の月夜哉

小石川　長谷川久子

○

雨晴て小庭明きさつきかな
夏の風渡りそめけり青すだれ
短夜の夢おどろかす曉の鐘

深川　長田　わき

○

春雨に讀み終りけり婦人版
春の雨靜にひゞく寺のかね

本郷　なでしこ

○

聾病のわれ暗み夜に物思ふ
日に月に流て青葉かほりけり

讀者だより

◎先生美しい賞品をお送り下さいましてありがたう御座いました。一日の雨にめつきり若葉も緑りの色こまやかになりました、婦人部の益々御盛大になりまする樣にひたすら禱ります。(品川　山田幸子)

◎十一日の茶話會はほんとに有益でそして面白う御座いました寄宿舍へ歸へりましてから皆さんでお話しいたしました、平澤先生のお講談には心から熱い涙を流しました。(本所　一會員)

◎私はキャラコ會社に働いて居る會員で御座いますがモスリンのお方はほんとに幸福だと思ひます。先日も茶話會をお催しになりましたとか、なかなかの御盛會と承りお羨ましうぞんじます。私達も時々その樣な會を開いてお互ひの向上を發展をはかりたいとぞんじます故何卒よろしく願ひます。(龜井戸一會員)

◎青葉の蔭に風なつかしい時節となりましたが皆樣お變り御座いませんか。私の爲め一番苦しい時で御座いますねえ、ほんとに夏の工場生活はつらいものです。我身に味ふと居る事故一入御同情いたします。病氣も多くなりますれお互に自重自愛致しませう。私は常におなつかしい皆樣の爲禱て居ります。(京都の一讀者)

◎私は磐城の山里に住んで居ります者ですが毎號皆樣の美しいお文章や歌など拜見して居ります何卒淋しい山里の妹になつかしい皆樣るおたよりもおもらし下さいませ。(磐城　ほとゝぎす)

◎世間の人達は何故私達を工女々々と輕蔑するのでせう。私はいつも考へます。それは私達があまりに無智な爲めでせうと、ほんとにそうですのれ、皆樣私達も一個の人間ではありませんかそれなのにまるで動物の樣に思はれ扱はれて居りますもの、今からお互ひに人としての自覺の上に立つて修養しませう又技術にも力をつくしませう一致團結してね。(大阪　しへたげられし女)

投書心得

一、文章は百字以内
一、和歌五首以下俳句五句以下
一、用紙は半紙か原稿紙
一、毎月五日〆切

254

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

月刊雜誌『友愛婦人』

▲代金は總て前金を申受ます。

▲御送金は振替貯金 郵便切手 代用の三種ある。

▲振替貯金は尤も簡便確實であります。

▲拂込用紙は郵便局で無代で呉れます。

▲振替貯金の口座番號は東京三一五七

▲郵便の爲替の時は『受取人宿所氏名指定欄』に東京芝區友愛會本部と御書き下さい。

▲切手代用は一割增の事。

▲着金の時は直ちに送本し別に受領證を出しません。

▲御送金の報知、註文、問合は會計部宛に願ひます。

▲御轉居の時は新舊兩方の住所を御書き下さい。

定價

冊數	定價	郵税	合計
一冊	十錢	五厘	十錢五厘
半ヶ年分六冊	六十錢	三錢	六十三錢
一ヶ年分十二冊	一圓二十錢	無料	一圓二十錢

廣告料

等級	一頁	半頁	四半頁
特等	三十圓		
一等	二十五圓	十七圓	九圓
二等	二十圓	十三圓	七圓
三等	十五圓	九圓	五圓

大正六年七月號
大正六年七月一日 毎月一回發行【七月號】

東京市芝區三田四國町二番地
發行兼編輯人 坂本正雄

東京市赤坂區田町七丁目三番地
印刷人 小野寺豊彦

東京市赤坂區田町七丁目三番地
印刷所 三洲舍

不許複製

發行所 東京市芝區三田四國町二番地
友愛會本部
振替東京三一五七 電話芝五八五五

發賣所 ◎東京堂 ◎同文館 ◎北隆館 ◎良明堂 ◎東海堂 ◎文影堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

友愛婦人記者　坂本正雄著

二十世紀之男女

〔定價金卅錢〕郵税四錢

友愛會員は本部へ直接申込めば一册送料共二十四錢とす（一切前金）

大好評

進歩的宗教の眞締と、
婦人問題の新研究と、
立憲政治の根本義と、
社會政策の大理想と、
廿世紀男女の覺悟とを
青年著者が聖靈に滿さ
れて記述せるの書也

朝日新聞は本書を眞面目なり書なりとし、讀賣新聞は本書を興味ある書なりと做せり。
浮田法學博士は著者を以て着實而も新らしき青年なりと紹介し、三並教授は著者を以て徹底的信仰を持するの人なりと讃せり。
更に茅原華山氏は著者に一書を與へて世の浮薄なる青年を呪ふと共に、生活問題を解決せんとせり。
右三氏の文章は本書の巻頭巻尾を飾り錦上更に花を添へたるの觀あり。

發行所　東京銀座　警醒社書店
振替東京五五三番
電話新橋一五八七番

大正六年六月二十八日第三種郵便認可物）
大正六年六月二十七日印刷納本（七月號）　毎月一回一日發行）
『友愛婦人』第七號　定價金十錢　郵税五厘

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA